成人映画

No. 11

成人映画・目次

通巻第11号

〈グラビア〉

若松監督の野心作 胎児が密猟するとき……14
女優 北御門杏子……17
水着姿の新高恵子……21
スター訪問／稼いで遊ぶ松井康子……22

〈本　文〉

特　集 独立プロの切札はエロチシズム……3
ロケ・ルポルタージュ……7
セクシー女優クイズ……12
シネマY談……13・25
成人映画上映館一覧表……33

連載インタビュー・第2回
★花も嵐もふみこえて…新高恵子……26
★セクシー女優／ワキ毛の美学……30

ピンク映画みたまま……佐藤重臣……29
マンガ……上田一平……28
岡田茉莉子のセクシー演技……32

■表紙／内田高子

エロチシズムこそ 独立プロの切札!!

▲「本　　能」乙羽信子と観世栄夫

「性本能といわれる愛の深層こそ、ドラマ作家がくりかえしてのぞいては、溜息をもらした深淵である」と新藤兼人監督がいうように、成人映画にみられる性本能の追及はくめども尽きぬテーマである。

ことしすでに封切った「他人の顔」「白昼の通り魔」は一つの角度から性本能を描いて、深い感動と共感をよんだが、つづいて封切られる若松孝二監督の「**裏切りの季節**」、武智鉄二監督の「**幻日**」、新藤兼人監督の「**本能**」、吉田喜重監督の「**女のみづうみ**」がそれぞれ待機している。

五社が〝清く正しい映画〟〝やくざとアクション〟〝女性路線〟〝特撮映画〟に終始しているなかで、真に性本能と愛の深層をとらえようとしているのはほかならぬ一連の独立プロといえる。以下作品のなかから人間の性と愛のエロティシズムをクローズアップさせてみた。

「本　能」（近代映協）

「季節の生命の移りかわり、そして自然とセックスの結びつき、人間の心と自然を対応させ、人間の性本能をとらえたい」というのが新藤兼人監督のねらいだ。

セックス描写といえば密室の中のベットシーンが多いのにくらべ、解放された自然の中で芽をふくセックスを描こうとしている。蓼科高原をバックに映画のヤマ場となる夜ばいシーンや、不能が回復するマサツシーンなど、随所に〝セックス〟が用意されている。新藤作品の中ではもっとも出来のよいシナリオだろう。

能の先生（観世栄夫）が原爆で不能になり、広島の赤十字病院で看護婦のマッサージ

で三カ月目に回復、その感動で、看護婦ともども泣いてしまう。「不毛の土地に芽が生えた」というのだ。

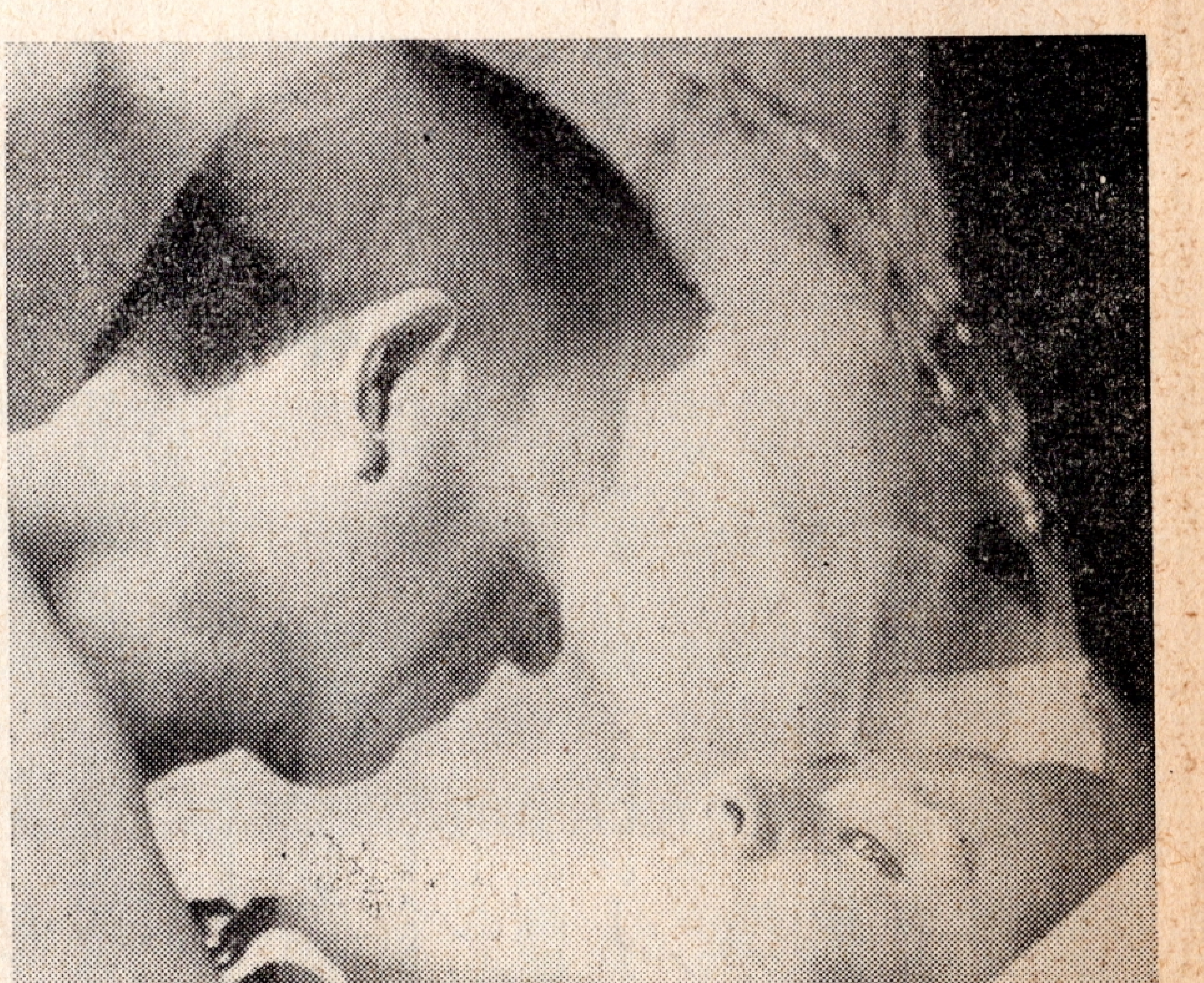
再び不能になり高原の山小屋にこもり、そこで部落から食事の世話に通うおばさん（乙羽信子）に夜しのびこみ本能を回復する。しかもおばさんは子宮外妊娠で死ぬのだが、その遺書には「先生、フノウがなおってよかった。わたしもたのしかった」とあった。人間の単純で素直な愛の交換、人間の虚飾をとりさるべきだ—という愛の原像を描こうとしている。現代人がすべてに不能化されつつある現象をこの映画はセックスをかりて訴えかけるだけだ。

「幻　日」（第三プロ）

「黒い雪」がワイセツだとして起訴され、裁判がはじまったが、話題の武智鉄二監督が夏目漱石原作の「夢十夜」をアレンジしている。

作品意図が「日本人の精神構造の問題を追及したい。社会心理を柱にして、日本の政治現況をうたいあげたい」という。物語はいささか難解だが、ある能面師（内田良平）が美女（柴田恒子）にあい心ひかれる。だがボスに邪魔され、女は死に、能面師は砂浜に墓を掘り女を埋めて、自分もその砂墓の中に埋もれる。柴田はアジアの民衆であり、内田は日本人の精神と心を表現する民族主義者の設定だという。

柴田がボスにコードで乳首と下っ腹に電流をさしこまれて拷問されるシーンはベトコンの女を拷問するアメリカ人のあり方の設定にしたり、内田の妻になる川口秀子（武智監督夫人）とのベットシーンも「一晩に二十回ぐらいやって、二十一回目ぐらいの行為が描かれているんだ。疲れてもう動けない状態ですよ」（武智監督）といい、それが日本とアメリカの関係を象徴させ、おたがいがいやだが離れられない状況を示して、アメリカによって半植民地化している現代日本の矛盾と悲劇を描くという。



▲「幻　日」

武智映画お得意の全裸シーンはこんどは鴨居羊子デザイナーの下着でおおわれている。

ロマンチシズムの中に日本の悲劇がどう表現されるか、肉体とセックスがこのように逆説的表現手法で映像化されるのは武智映画の独壇場ともいえるわけだ。

× × ×

「裏切りの季節」（若松プロ）

「映画評論」誌が〃上半期日本映画最高の収穫〃の特集をやり、長部日出雄氏が「この汚辱にまみれた旗」、斉藤正治氏が「我々とベトナムの栄光」を、さらに大和屋竺監督自身が「自己暴露の輝きに賭ける」の分析レポートをのせて大讃辞を送っている。上半期の日本映画最高作品であるかどうかは一応問題があるとしても、これまでの一連のピンク映画の領域を鮮かに脱出し得たことは認めていい。

一種のプライベート・フィルムともいえる作品だが、大和屋竺監督を起用して、この肉と性で復讐劇をヌケヌケと描かせた若松孝二の気負った現代性も勇気のあるものだろう。

映画は主人公の中谷が報道カメラマン、同僚の長谷川カメラマンをベトナムで射殺して帰り、同僚の女眉子（谷口朱里）をアパートで抱く。

愛していた長谷川を殺されたことを知り、女は中谷に復讐する。その間、谷口が殺し屋たちにエスカレーションと称して拷問される。

中谷と最初のベッドシーンはそれほど目新しい表現ではないが、全裸で谷口がムチで打たれ、被虐的な快感を感じはじめる過程はこれまでの日本映画のエロティシズムのパターンを大きく飛躍させている。

谷口が一糸まとわず宙吊りされて、ムチ打たれるシーンは印象深い。もう一つつけ加えると白坂依志夫が「映画芸術」誌で書いている。「極端ないい方をすれば小児病的切片淫乱症風な感じさえする。ベトナムという現実をもっとガチッと認識して、そこから飛躍したイメージや、アンチ・テーゼするごときイメージがあるなら、おそらく本年の屈指の作品になっただろうけど、不感症気味になっていてムード的に流された感じを与えるのだ」と極論している。

さきの長部氏が「逆転の可能性」を感じとり、斉藤氏が、「凡百の企業映画に一太刀をあびせ、これまでの三百万円映画をも斬りさいた」と評価するのだが……。

「他人の顔」（勅使河原プロ）

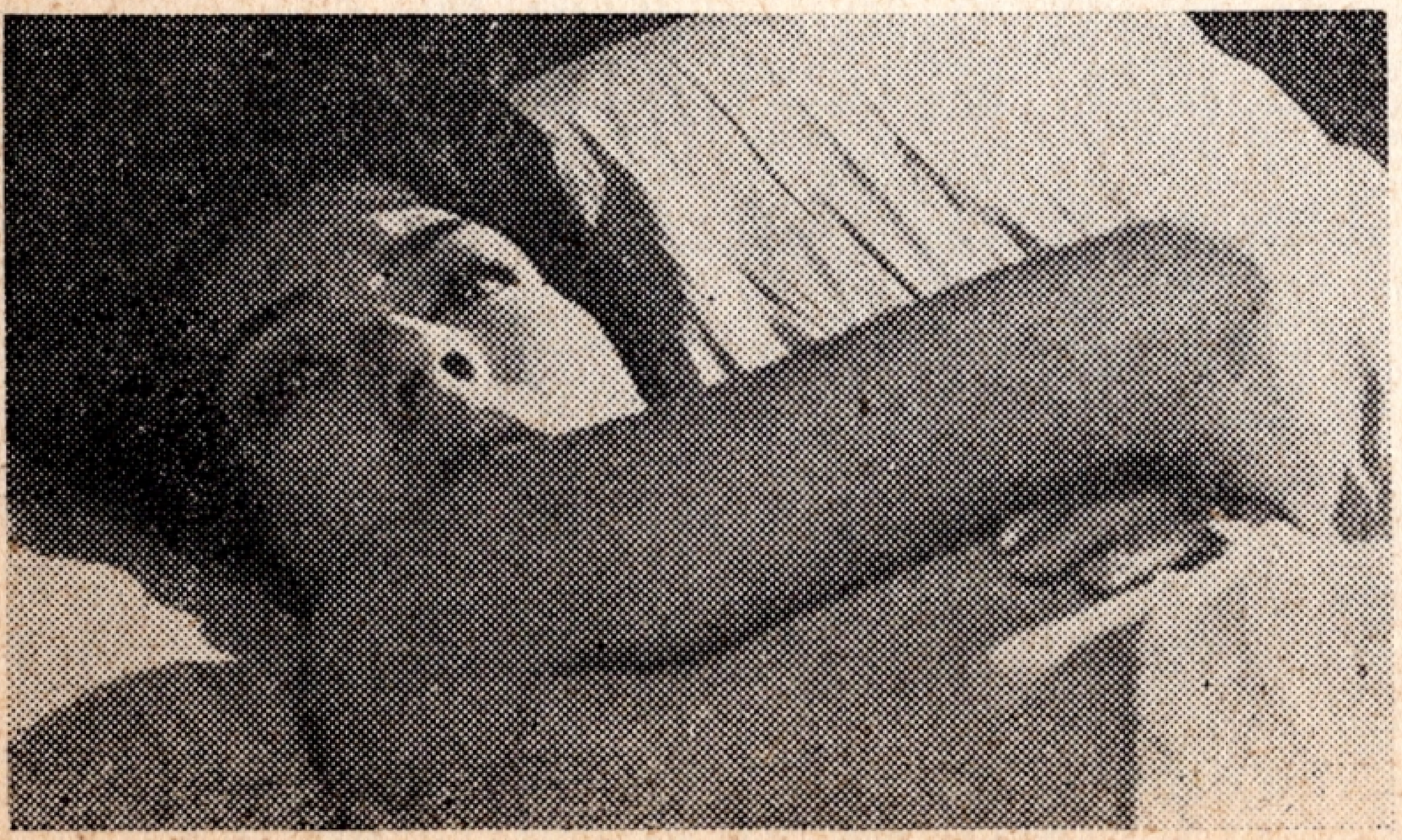
刺使河原宏監督といえば、どんなスターでもいさぎよく脱がしてしまう監督として定評がある。しかも必然性のあるオールヌード、それに芸術性の糖衣をくるんで、裸のセクシー美学を提起してくる。

その辺が暗くて汚れた脱がせ方しかできないピンク映画監督との大きな相違だ。

「砂の女」で岸田今日子を、そしてこんどはグランプリ女優京マチ子を「他人の顔」で見事に脱がしてみせた。

他分この時、勅使河原監督は芸術の仮面をかぶって「芸術のためです」といって京を口説いたに相違ござるまい。

映画では、夫の仲代達矢が〃他人の顔〃の仮面をかぶり、

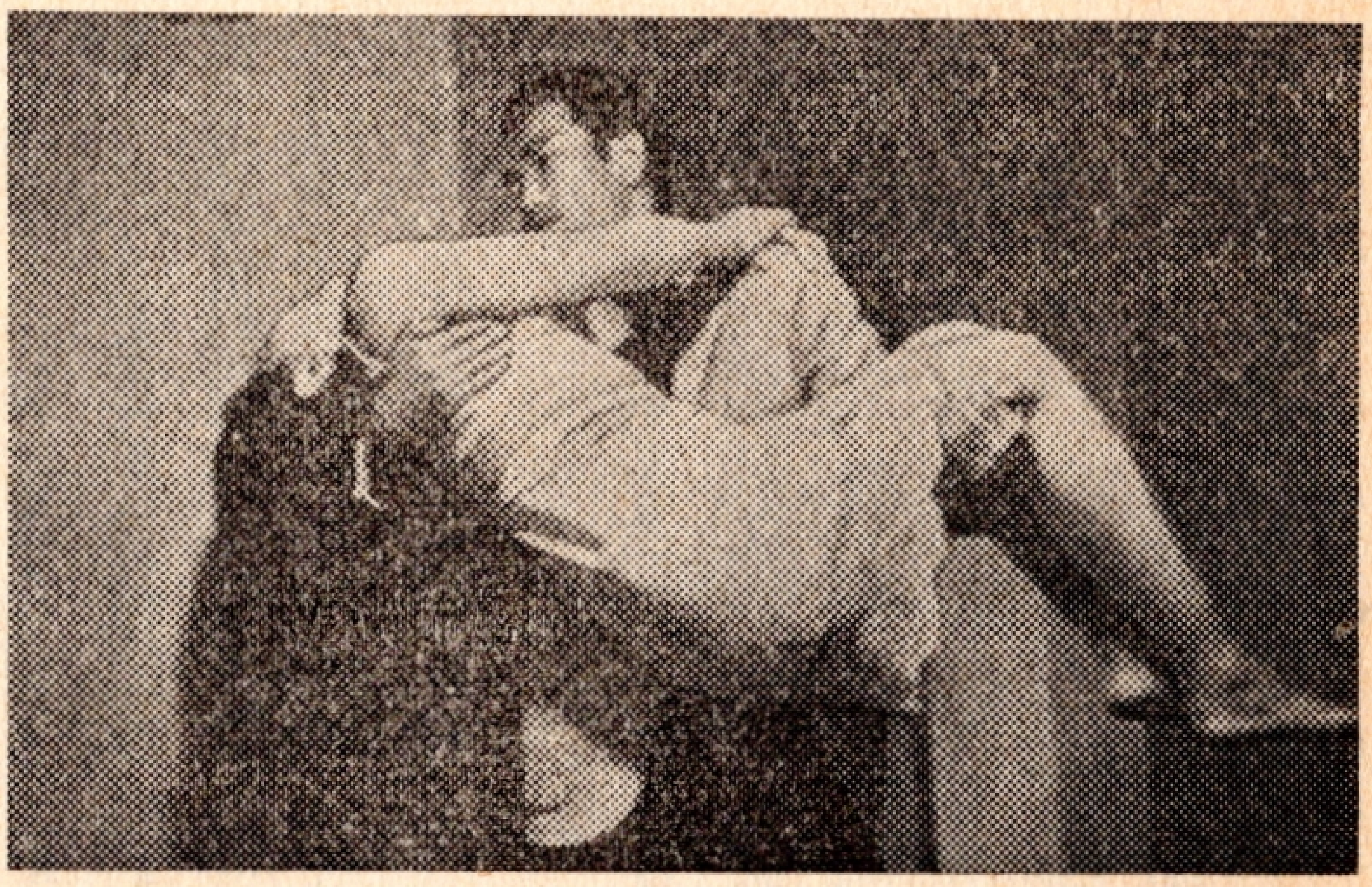


▲「他人の顔」

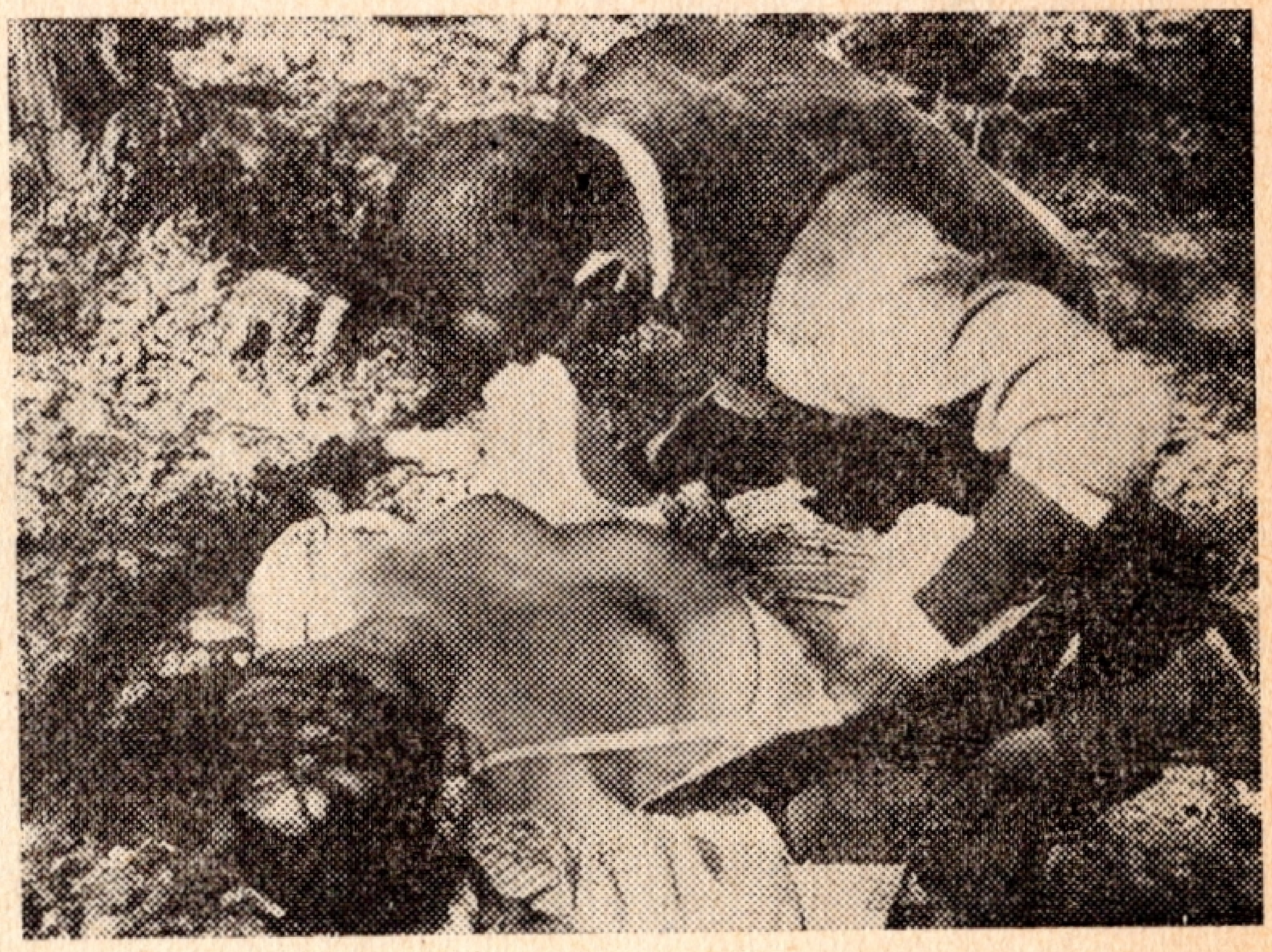
妻(京マチ子)との愛の冷却を再びとりかえそうと、誘惑する。妻がいともカンタンにコトを済ませたので嫉妬して寝ている京のシーツをパッとはぎとる。この時の京の乳房が丸みえとなるショッキングな場面である。いまだおとろえをみせない豊かな彼女のオッパイ、ところが、乳首がかなり黒い。これはリアルな映像だとワイセツだ—と映倫が〃要注意〃の注文を出したため、フイルムをわざと黒く焼かせたためだ。

しかし乳首の黒いのはセックス度の判定をさまざまに下す通説にさえなっている。「黒いのは困る」「変な誤解のもとになる」と諸説があって、もとのキレイなオッパイのフィルムに還元させたそうだ。ややこしい話である。

しかし、もう一つ京のパンチのきいたヌード演技を期待したのだが〃出し惜しみ〃とはこのことでもあろう。



◀「裏切りの季節」



◀「白昼の通り魔」

「白昼の通り魔」(創造社)

大島渚監督のこの話題作は屍姦シーンからはじまるエロティシズムはまことにショッキングであり、鮮烈である。村長の息子(戸浦六宏)と心中し、縄が切れて失神しているシノ(川口小技)を英助(佐藤慶が屍姦する。佐藤はそれまで、村の権力である六浦に頭があがらず、シノに惚れていながら、どうすることもできない。やっと心中損いのシノに思いをとげるのだ。木の枝にブラブラする村長の息子を見あげながら、その下でシノの胸をはだけて、樹上縊死、樹下屍姦はまさにショッキングなシーンである。

英助は「見てろ!源治、よく見とけ!」憎悪の顔から英助が欲情のカオに変る。シノのむき出しの乳首。その上にポタポタと英助の汗が落ちる。

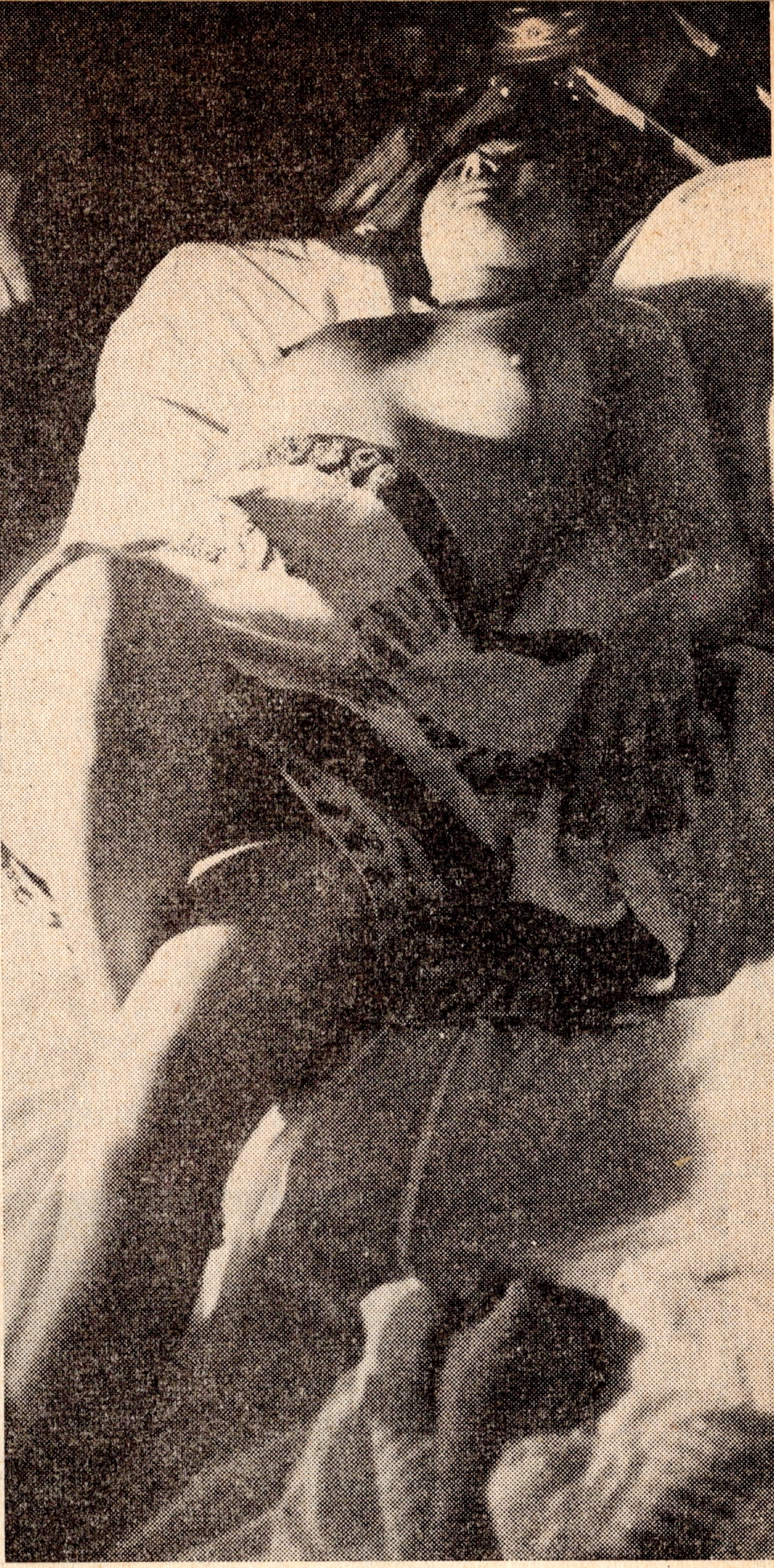
白く透るような川口の肌、限りなく新鮮な大らかな乳房である。川口を起用しただけでもこの映画の〃性と死〃の対決があざやかにうきぼりされるのである。

同じ「他人の顔」でも京の場合はネガを黒くさせられたが題名通り〃白昼のセックス・シーン〃ともなれば映倫もそうはいかないわけだ。

若い川口の乳房と、中年の京の乳房を比較評価するのはどだいムリなことだが、この一作品を見くらべてみるのもエロテイシズムファンにとって興味深いところだろう。

——・ ・——

ロケ・ルポルタージュ「餌」（東京芸術映画製作・国映配給）



全裸でハッスルする城山路子

千葉県、木更津から少し入ったところに、新舞子浜がある。静かな漁村だ。そこで東京芸術映画製作、国映配給「餌」（監督向井寛）の撮影が行われた。

この作品は踊りの師匠で美しい未亡人（城山路子）は、若い男（一力千城）に金とセックスをあたえ、飼い犬のごとく飼いならしてゆく。さらには男に若い女の子を引っ張り込ませては、好色夫人たちに、マジックミラーで実演を見せて楽しむという異常性格の未亡人だった。最後にはその男が娘を犯し「俺が犬畜生だったら、あんたは何だメス豚じゃねえか、俺はあんたの餌犬じゃないんだ、豚どもの肉体の相手をして金をもらうのはまっ平だ。俺だって人間だ」と未亡人に復讐するが、狂った未亡人は男に猟銃をむける。

千葉の撮影現場では、別荘と海のシーンだが、女優を脱がせることにかけては右に出るものがいないといわれる向井監督。こんども城山路子が全裸にさせられ、泣きベソをかいていたが、城山が全裸になったのはこんどが始めてとか。しかし全裸そのものが必要なシーンならともかく、なんでもハダカにしていいものかどうか、スタッフの間からもとかくの批判が出るほどだった。成瀬恵子、新人の松本待子、花葉夏枝らも全裸にさせられたが、若い三人の女優たちは撮影後、海に入ってキャーキャーと騒ぎまわっていた。

この作品で二人の新人女優と一人の男優がデビューするが、主役の一力千城はピンク系では珍らしく、男性的で、顔がいい。演技は未熟だが、男優不足なピンク映画に新風を送るだろう。（川島のぶ子）

★今月のスクリーン・エロチシズム

非行少女の群れ

製作・国際ビデオ
（配給・新東宝）
監督・湯浅浪男
主演・北御門杏子

ジャズ喫茶をたまり場にしているコールガールのみどり（北御門杏子）は客の顔を見てハッとした。田舎で村長をしている父親だったのだ。三年前父親に殴られたみどりは家出し、バーのホステスをやっていたが、コールガール組織の一員伸次（井村弘史）に体を奪われヒモとなった。無理矢理にコールガールにされたみどりの話をきいた父親は、田舎に帰ることをすすめたが組織にしばられた彼女たちは泥沼の生活からはい上れなかった。

▲「非行少女の群れ」

穴　場

配給・六邦映画
監督・小川欽也
主演・奈加喜美

デラックスなマンションは都会にそびえたつ城である。その城の中でくりひろげられる虚栄と欲望は数知れない。カメラマンの的場（葉山純）は女子大生の順子（藤川由紀）をモデルにヌード撮影の真最中。隣りの室ではバーのマダム（奈加喜美）が客たちと乱痴気さわぎに狂っている。マ

▲「穴　　場」

ンションに住む二人の女と男のドライで奔放な生き方と、そのむなしさを描いている。

甘い体臭

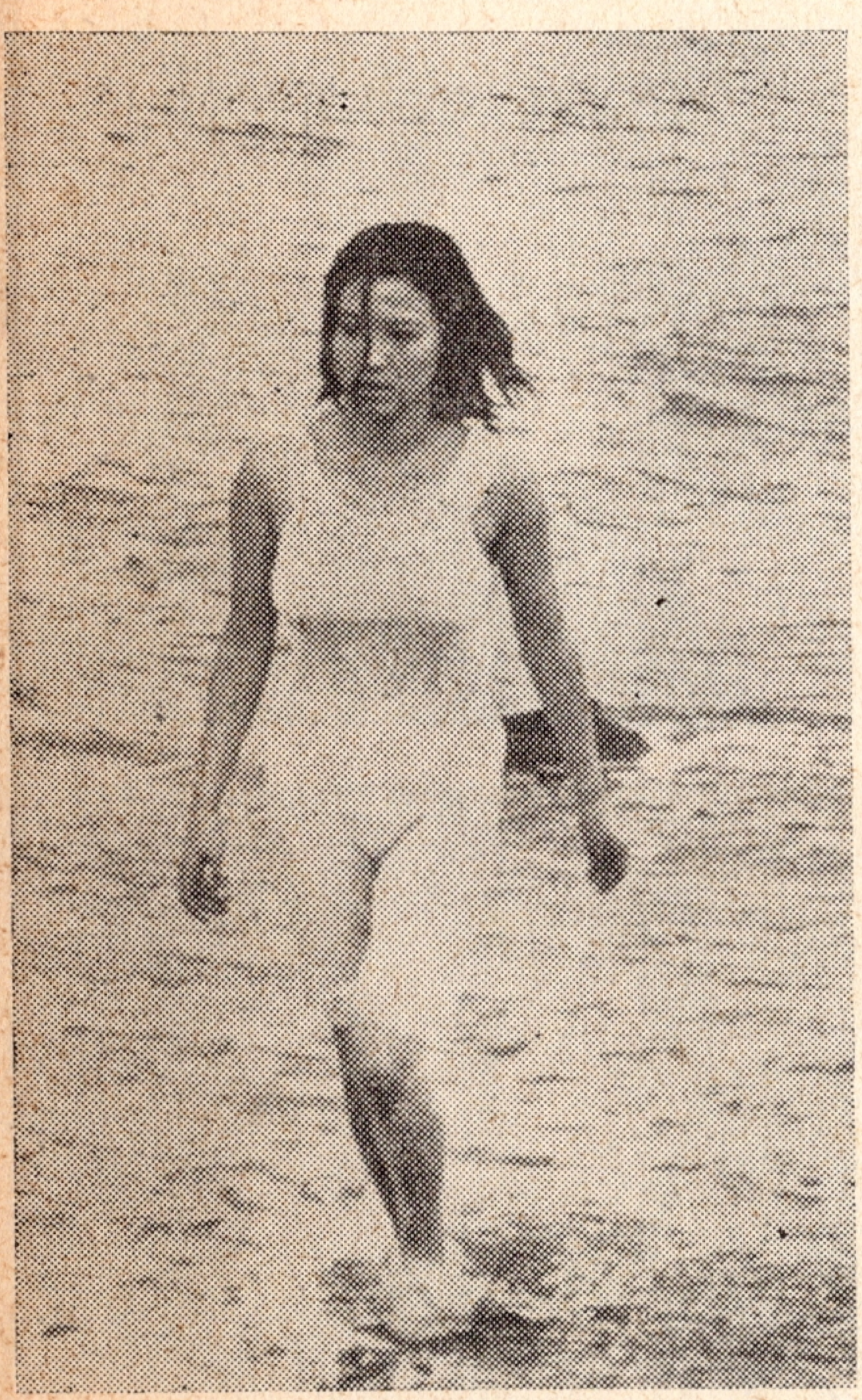
（製作・アルスプロ
配給・関東映配）
監督・小林　悟
主演・枡田邦子
・火鳥こずえ

陸送屋を経営している栄子（枡田邦子）は、旅館の番頭をしている夫（大月竜也）の無気力に愛想をつかし、自動車修理工場の経営を夢みて、ゴルフ場の専務や社長（九重京司）と情事を重ね、資金を作ろうと計画するが、新車を陸送中に意外な事件がおこる。

女子学生のあやまち

（製作・山本プロ
配給・日本シネマ）
監督・山本晋也
主演・叶　笙子

旅館を経営する母の情事をかいまみた幸代（叶笙子）のショックは大きかった。毎夜学友の満子（庄田道子）と同性愛にふけり、ふとしたことからボーイフレンドの西村を堕死させてしまう。母親への不信が、十七才の彼女を悲劇へと進ませたのだった。



▲「女子学生のあやまち」

わなの喘ぎ

（製作・新星プロ
配給・関東ムービー）
監督・経堂三郎
主演・左京未知子
・美矢かほる

私立探偵をしている美貌の姉妹（左京未知子・美矢かほる）――清純な妹と艶麗な姉とは、全く対照的な存在である。姉の秋子は仕事のためには豊満な肉体を張って金を得ようとする貪欲な女性だが、彼女が金よりも愛情の美しさ尊さを知ったときは、すでに妹の春子と結ばれてしまっていた。体を賭けてドライに生きてゆく近代女性の計算された情痴の報酬と、その挫折を描いている。

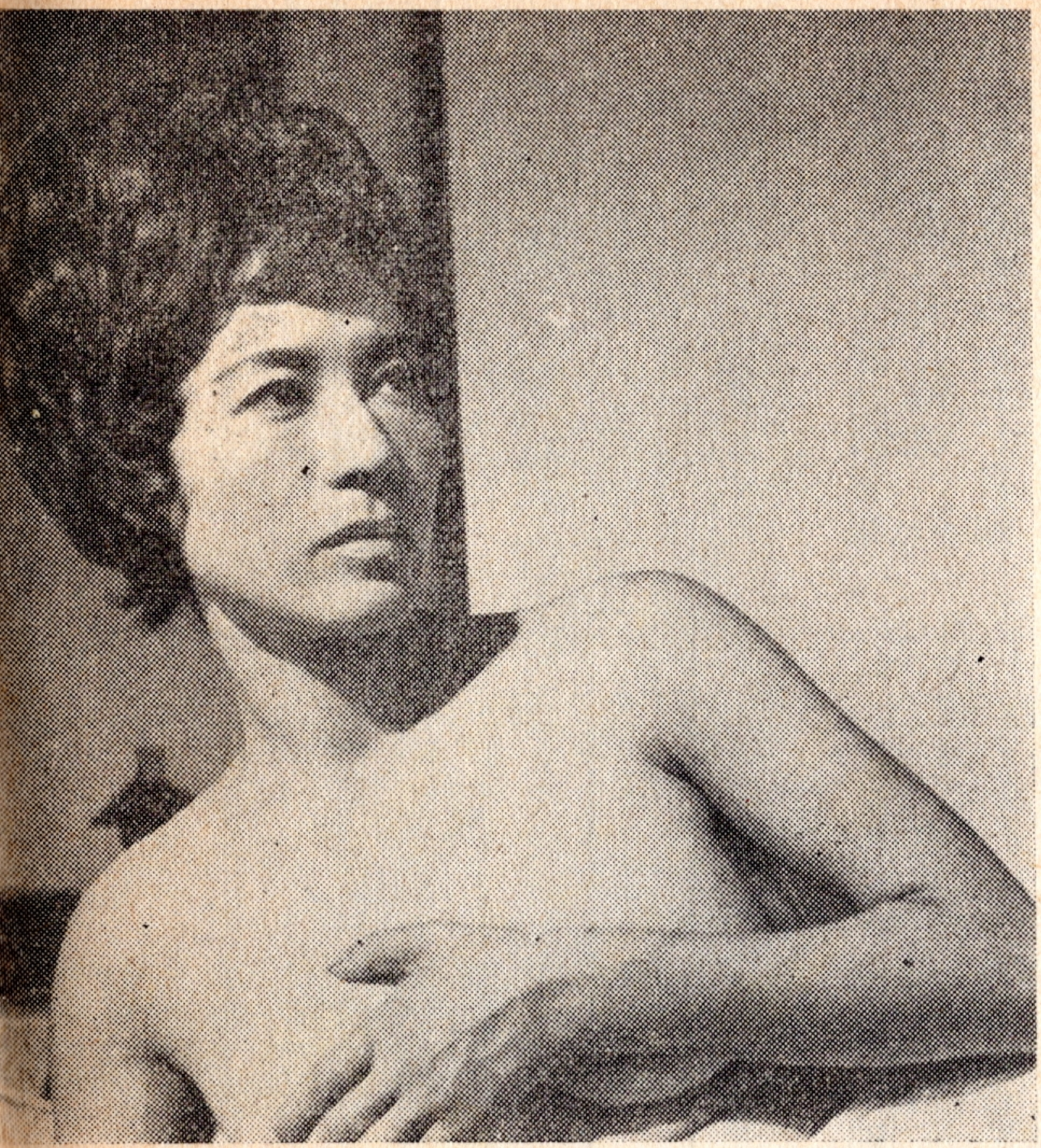
泣き濡れた処女

（製作・ヤマベプロ
配給・大蔵映画）
監督・飛田　良
主演・美矢かほる
・城山路子

▲「甘い体臭」

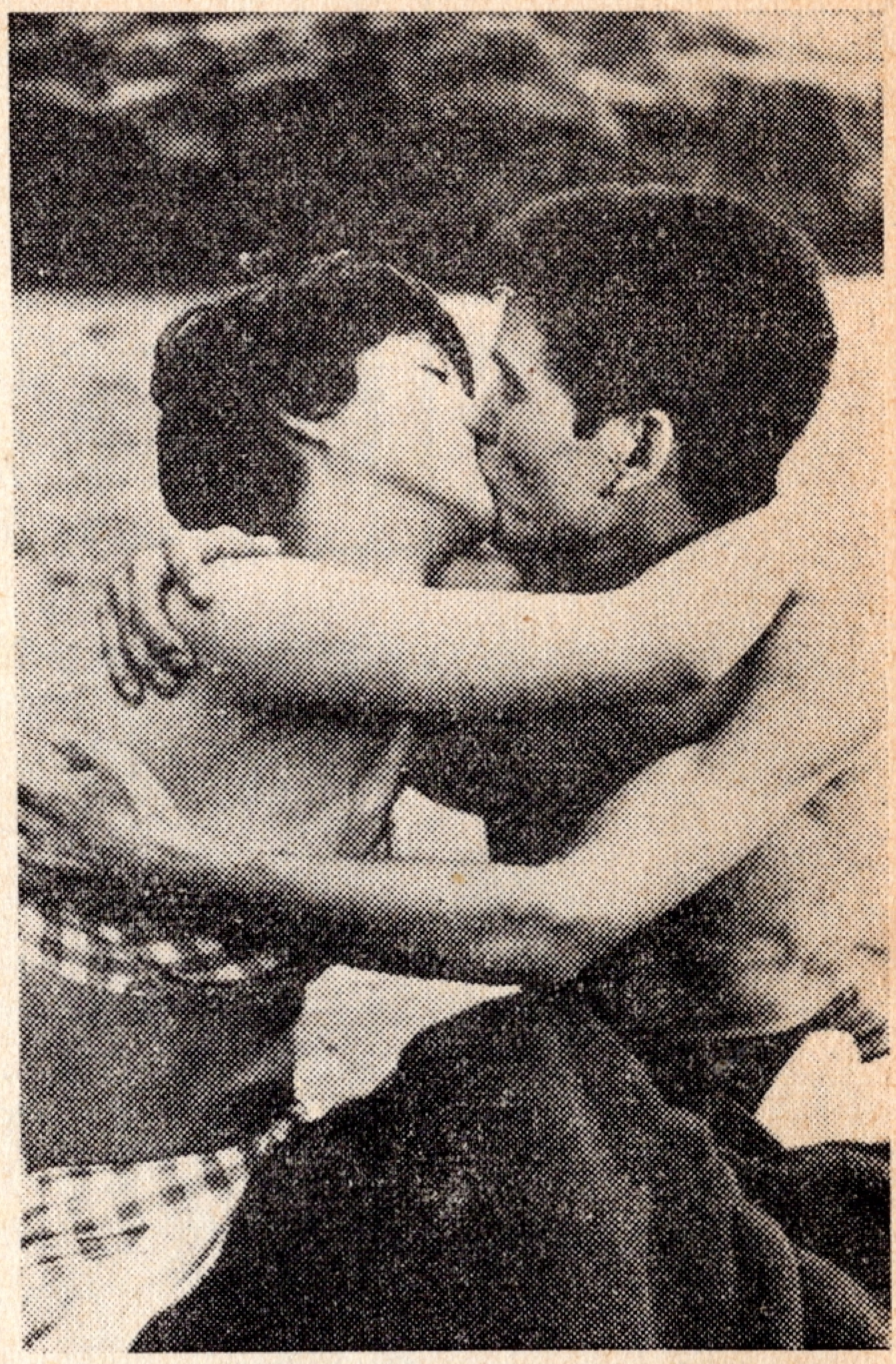
悪どい金融業者にだまされて金を借りたバーのホステスの節子（美矢かほる）は、弁護士の鳥居（森公二郎）にたすけられ、何んとなく温泉マークの中に消えていってしまう。

一方、鳥居の妻だったバーのマダムの松江（城山路子）は、異常体質で、一日として男なしではいられない女だった。そして、今日も松江は男を引きずり込んでいた。



▲「わなの喘ぎ」

▼「泣き濡れた処女」



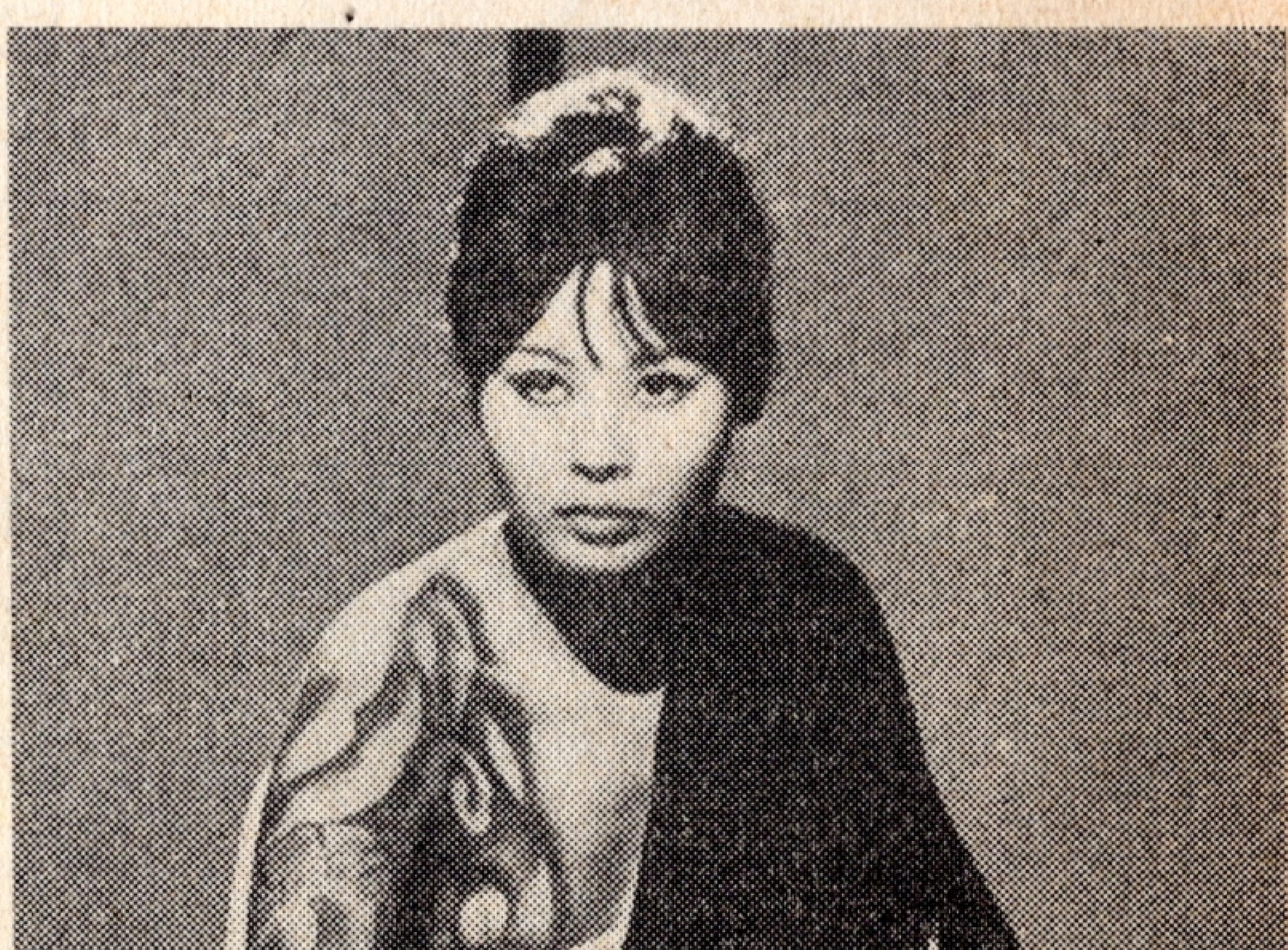
艶やかな夢

（製作・東京芸術映画
配給・国　映）
監督・向井　寛
主演・志摩みはる

三話からなるオムニバス映画。一話は予備校を受験のため、美しい清純な女学生（内藤正子）のパンティを盗みつづけ、そのパンティをはいて勉強している健二（野上正義）はやっと予備校に入学し、女学生の家にゆき、ねている彼女を〝キミのお蔭で学校に入れたんだよと愛撫する。

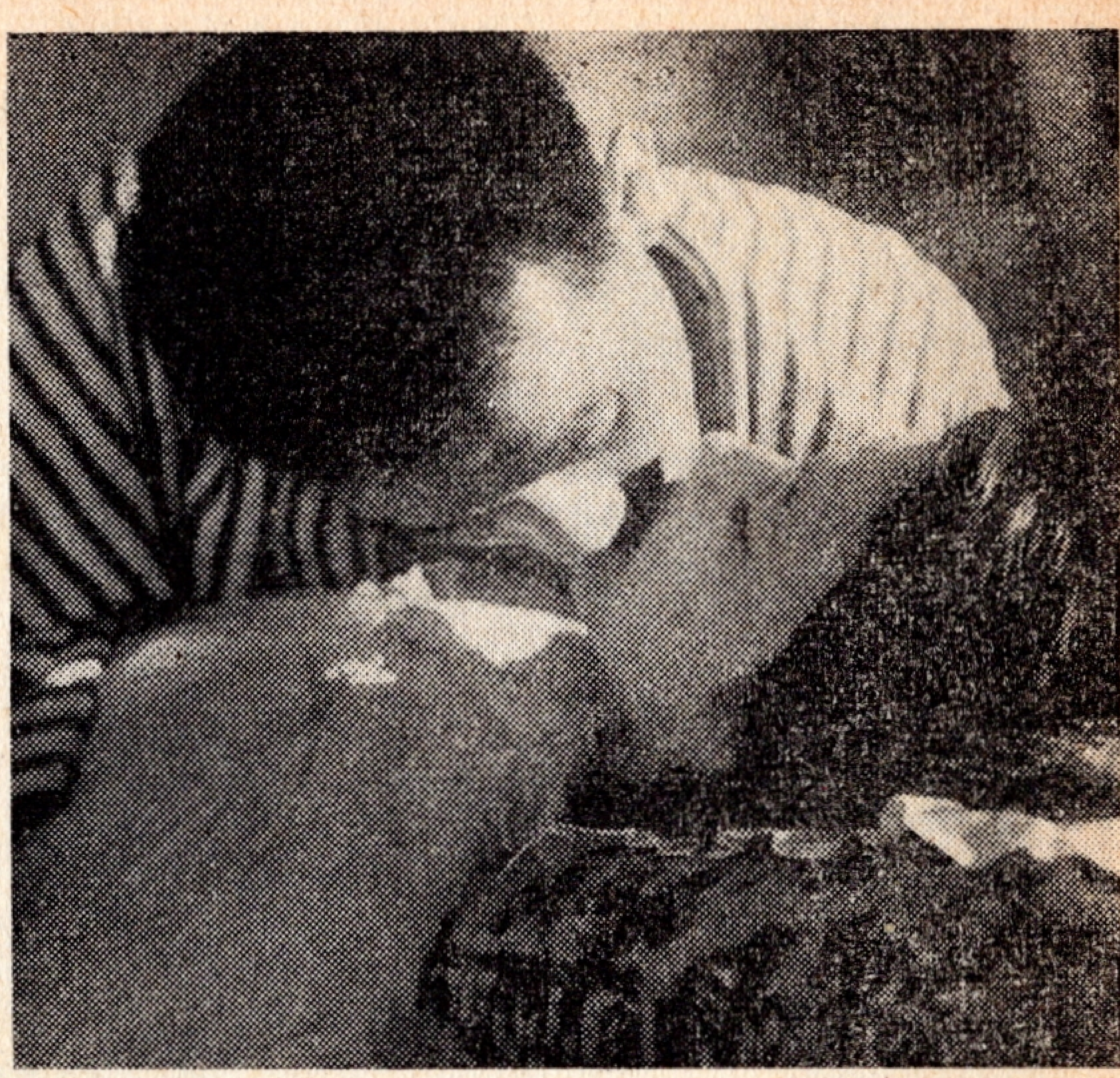
二話は新婚夫婦（山本昌平・志摩みはる）が初夜の失敗のため、離婚し、手切金をもらった彼女は計画した通り別の男の所に金をもってゆくがその男には別の女がいた。

三話は男女のセックスの中に能を取り入れて描いたもの。



▲「女豹一番勝負」

★今月のスクリーン・エロチシズム


▲「艶やかな夢」

女豹一番勝負

（製作・富士映画）
（配給・六邦映画）
監督・深田金之助
主演・可能かず子

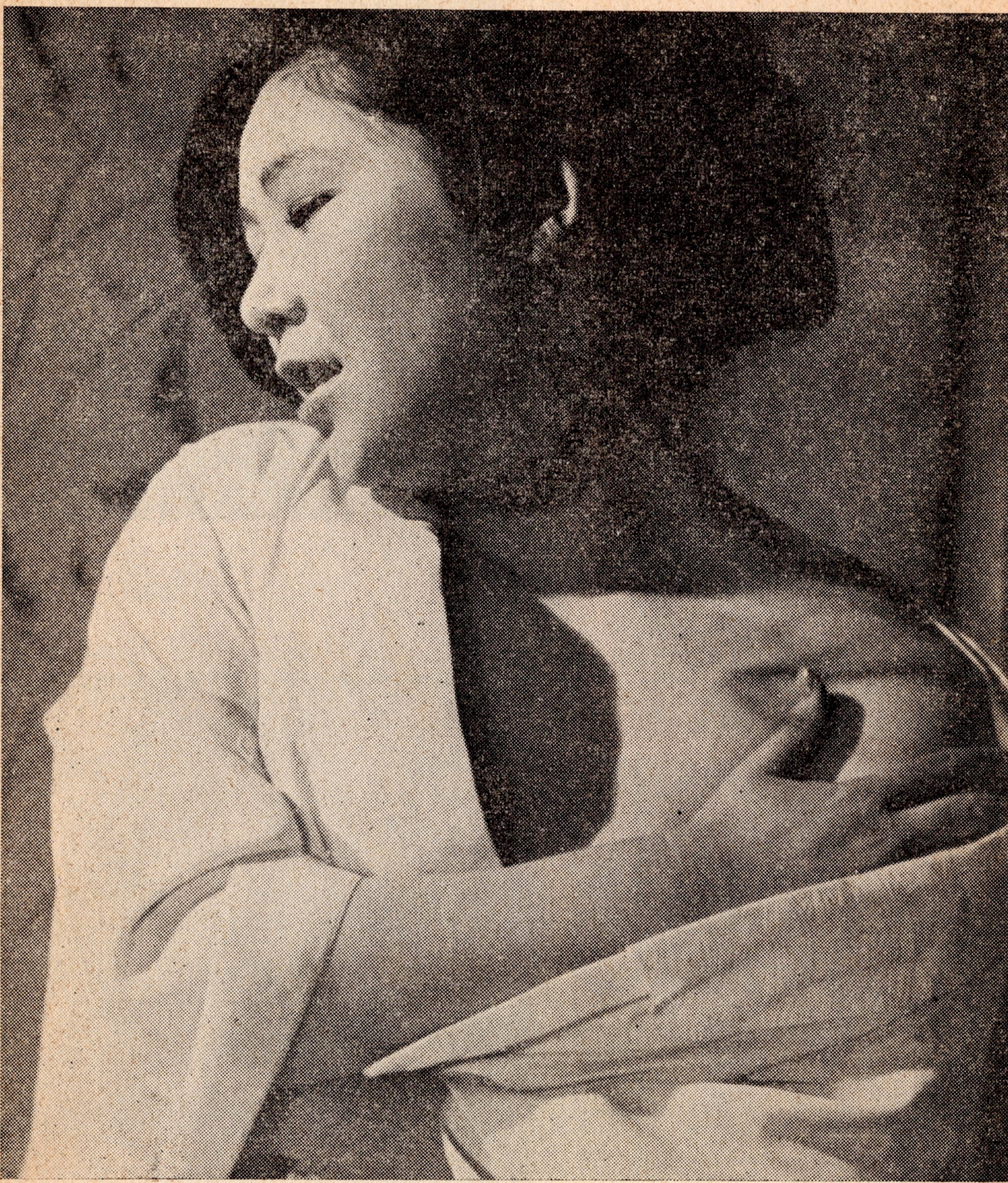
やくざの家に生まれた由美（可能かず子）は、美しく成熟した雪の肌に入墨をしたため親に勘当される。大阪にいる女侠お花を訪ね、岡山のバーで働くが、土地の顔役が店の売り上げ金をしぼっていることを知り、正義感に燃える由美は双肌ぬいで啖呵を切った。あざやかに彫れた唐獅子牡丹が、一瞬緊張するのだった。

▼「愛欲の果て」

愛欲の果て

（配給・葵映画）
監督：西原儀一
主演・新高恵子

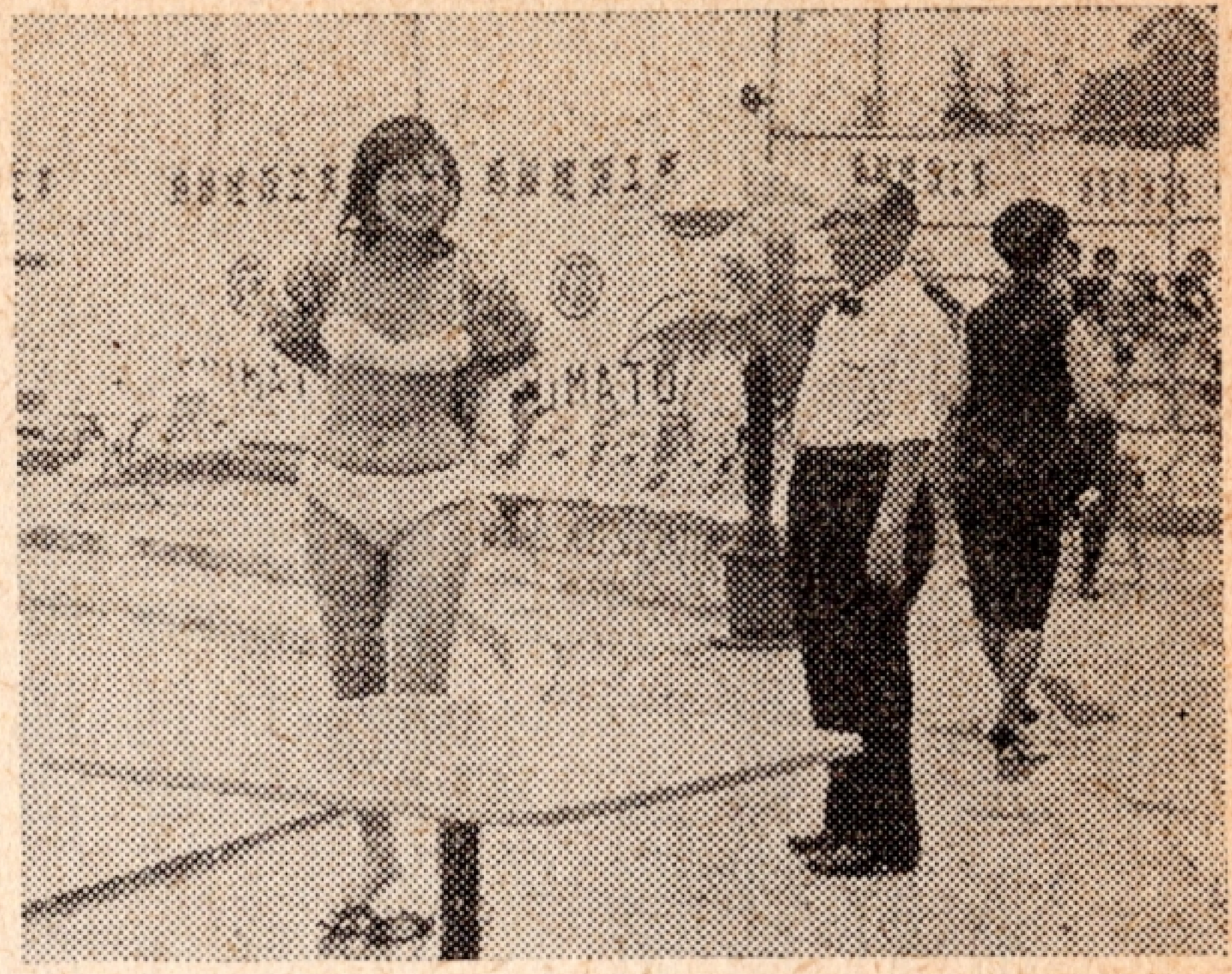
光子（新高恵子）は両親に死別しまだ三十という若さで代々の家業のホテルを守っていた。そんな光子を番頭の大沢（椙山挙一郎）が肉体をうばってしまうが、通りかかった客の島村（鶴岡八郎）が光子を見て、一瞬ギクッとなった。島村の妻由加（新高恵子）に瓜ふたつだったのだ。川治温泉を背景に新高恵子が性格の違う二人の女性を演じ分けている。



<懸賞>「セクシー女優クイズ」この女優は誰？

クイズも第5回目を迎えてますます好評。真夏の夜，ひとしきり汗をかいたのかそれともひとり寝のねぐるしさの悶えなのか。ユカタの胸を大きく開いて風を入れる。日本的なセクシームード一ぱいというところです……。

さてなんという女優さんでしようか・第1ヒント「合鍵の女」のシーンです。ピンク映画女優の演技派No.1です。元日活女優でした・第3ヒント，最近作「赤いしたたり」「不純な快楽」「あまい唇」「悪徳医」「私はみられた」など，月1本の割りで出演しています。正解者10名に内田高子の新譜レコード「女が爪を切るとき」を贈ります。答えはハガキに住所，氏名，年令，職業を明記のうえ，東京都中央区銀座東6ノ4村木ビル5階　現代工房「成人映画」編集部あて。締切は9月20日まで。発表は賞品発送をもってかえます。



オークラランド・プールでの新高恵子

大蔵映画では東京・世田谷にある撮影所を一般に解放するため、ボーリング場とプールを建設中だったが、七月三十日にプールが完成。大蔵貢社長以下工事関係者とピンク女優が出席し華ばなしく開場式を行った。お祓いが済んだあと、待ってましたとばかりに、白いビキニの水着をつけた新高恵子が飛び込んだのはよいけれど、全然泳げずただ水の中を歩くのみ。つづいて扇町京子がスイスイと泳ぎ回ったが、この間ホンの二、三分。いつのまにか洋服に着替えていた。遠方より声あり〝さすがピンク女優だけあって着替えの早さは、なれたものだね〟

★

こまどり姉妹の妹が刺されたと思ったら、都はるみの妹がカオを切られ、浜田光夫、葉山良二がやられるというスターご難ばやり。目下全然被害のないところといえば、ピンク系のスターだけ。それだけピンク映画ファンはレベルが高いのか、善良なのか。それにしてもユメユメご油断めさるなと警告したいね。

★

新藤兼人監督の「本能」（近代映協）に水城リカが全裸で出演している。長野県蓼科高原の雪の中で、全裸になって、手をあげるタイトルバックシーン。物凄いさむさの中で、一糸まとわずスパッと全裸になったのには巨匠新藤監督もさすがにシャッポを脱いで「独立プロの女優さんの度胸はリッパだねぇ。根性は見習うべきだよ」と大いに感心水城の肢体の美しさも相当のものでした。

★

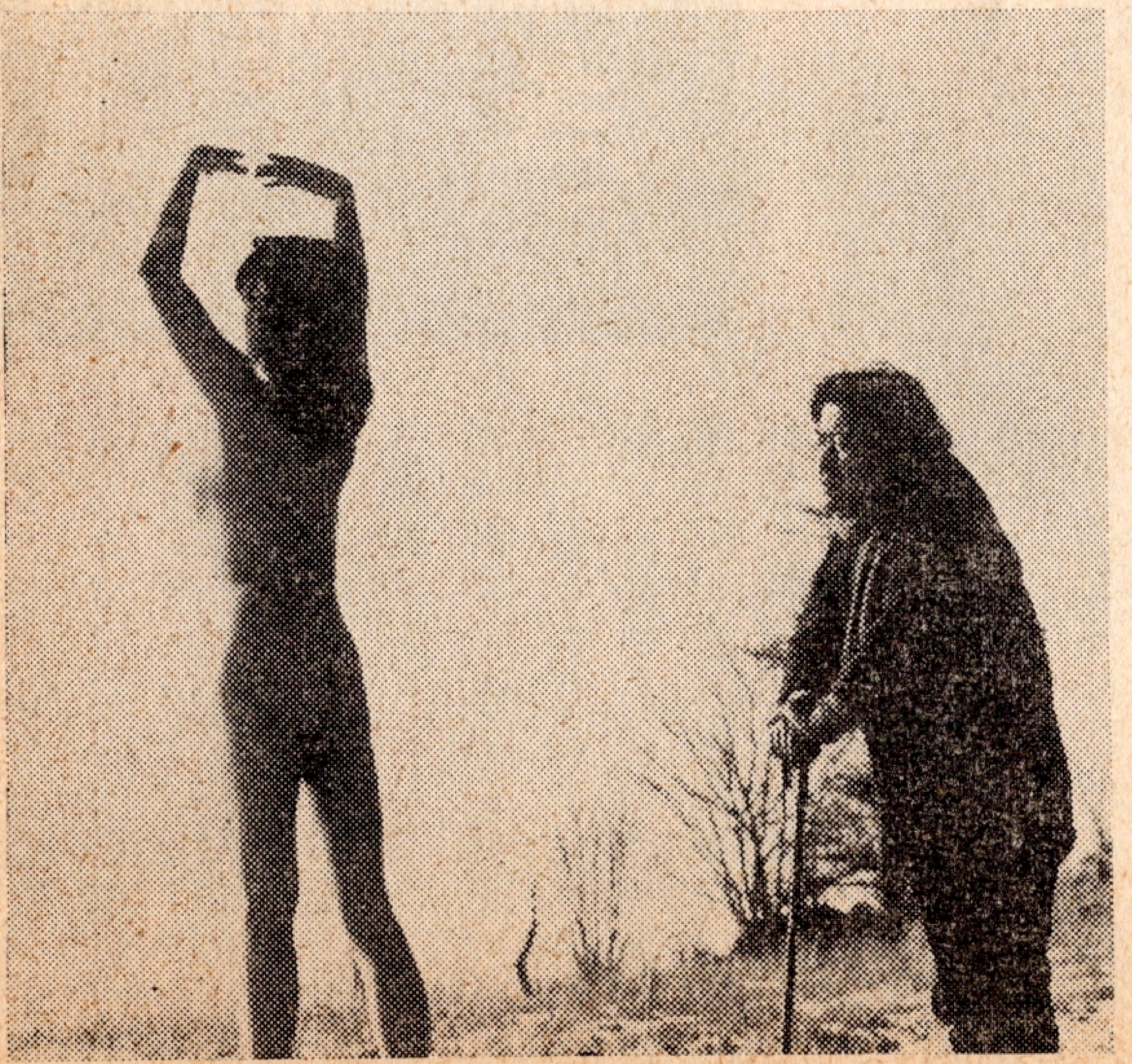
東京興映では月一本制の方針で、八月の配給は「未公開の激情」九月は小森プロ作品「拷問」九月以降は「地獄の罠」「甘い鎖」を予定している。

★

国映ではこのところ向井寛監督作品が目立って多いが八、九月配給二本とも向井作品となっている。八月一日「新妻」（監督中野弘也）四週「艶やかな夢」（監督向井寛）九月一週「餌」（監督向井寛）。

★

日本シネマでは九月に三本の作品を配給する予定で、パートカラーにすることに決めた。



「本能」で全裸になった水城リカと観世栄夫（右）

女を飼育する楽しさ
それが若松監督の野心作
胎児が密猟するとき

現代の男性が女性にへり下り、まるで去勢され尽したような現状でさえある。

〝男よ強くなろう〟〝女房をひっぱたけ〟〝男権復活〟などということが、週刊雑誌でさかんにとりあげられている。そこで若松孝二監督が、女に対してマザーコンプレックスを抱いている野郎が、女を徹底的に飼育したらさぞ気持のええことだろうーと考えついて映画化したのが「胎児が密猟するとき」(若松プロ)。

アパートの一室だけでドラマが展開、俳優も山谷初男と志摩みはるの二人だけ。

デパートの専務の山谷が、売り子の志摩を全裸にして縛りあげたりして、ムチで打ち、「おまえは豚だ、糞袋だ」とローソクのような刑具でズタズタに責めさいなむ、そして犬のように首縄をつけて歩かせる。

若松の演出の意図の一つには、鞭の響きにつれてのたうつ女の動きは、そのまま産道を通過する胎児の状態の再現なのだという。

その胎児が鞭(猟銃)によって密猟される状況を示すのがタイトルといえるわけだ。

稲村秀弘氏は日本読書新聞で「シナリオ構成はほとんど極度に厳密であり、サディズムの凄惨な昂揚にもかかわらず、演出が「浮かない」のは、冷たく明快な論理にたえず監視されているからだろう」と評し、〝滅亡愛の楽園を歌いあげる〟作品だとしている。従来のピンク映画を脱出して、いいたいこと、描きたいことをここまで進展、実験させたことは一つの賭けであり冒険であろう。

一部には稲村氏らの評価と全く逆な「生硬で観念的な、生理的に耐えられない」作品だと評するものもある。

作品の評価はおのずから二分、三分されるのは映画の宿命だが、注目されるのはこの作品に強烈な印象を与える演技を示す志摩みはるの鮮かな女体恍惚美といえるものだろう。

ひところこれほど、脂肪と重量感をもつスクリーンのスマートさをそこねた彼女の変身ぶりと、肉のしまり方は、映画の〝密猟〟のなかで飼育された成果なのだろうか。

演技力の点も成長のあとがみえる。なにはともあれこの作品のカゲでほくそえむのは若松であることは間違いのないところだ。

「胎児が密猟するとき」　志摩　みはる

女　優

北御門杏子

♥ Kyoko Kitamikado

親子三代の俳優稼業なそうである。映画界のよさも醜くさもいやというほど身につけてしまっただけに、相手の顔色を素早く読みとってしまう。利口さと現代っ子らしいドライさと血筋ともいえる役者根性の見事なフォーム。ピンクプロが彼女に求め、利用度を増しているのは憶せずにやってのける若いバイタリテイだろう。

水に憩う　新高恵子

〈オークラランド・プールにて〉

〈スター訪問〉

儲けて遊ぶ松井康子 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ピンク映画の山本富士子といわれて、セクシー映画の隆盛期をはなやかにしたのが、ご存知松井康子さん。
純日本的な美人で、国映の〃妾〃シリーズで人気スターの座を築いた女優だ。このところ決定的な作品に恵まれないが最近、錦糸町にスナックバーを開店したばかりで、その経営的手腕もなかなか。本業の女優より、スナックバーの方にウェイトがかかりそうだが、そんな彼女のオープン間もない店を訪ねてみた。

○「ストライク」開店

国電錦糸町駅のすぐ裏側、大通りに面した錦糸公園の真向いにある角のスナック・バー「ストライク」が、去る十五日に開店したばかりの彼女の店。テーブルが三つ、カウンターがあり、シャレタ照明や赤い揃いの椅子、洋酒や食器棚のシャレたセンス、小じんまりとした店構えは、彼女がデザインしたものだそうだ。
なかなかセンスがいい。お客もほぼ満員。「なかなかいい感じじゃないの、儲かってもいるようだし…」ときくと、例によってボリューム豊かな体をゆさぶって、
「フフフおかげさまでね、ケッコウお得意さまがきて下さるのよ。立地的条件がよかったのね」
と、念願の店を開店させてうれしくてしょうがないといった表情だ。
カレーライス一八〇円、スパゲッティミートソース一八〇円、ナポリタン一五〇円、トースト一〇〇円などと書いたメニューがある。なかなか安い。「当店自慢の料理はなんだい?」ときいたら「カレーライスなんかいけるわよ」と彼女が推せんした。本日は特別サービスとして、彼女がゴハンを皿に盛りつけカレーをたっぷりとかけてくれ福神漬も多い。

○自慢のカレーライス

可愛いウェイトレスが運んでくれた自慢のカレーライスをパクつくと、からみ、ゴハンかげんが、実にいい。やはり彼女がすすめるだけあっておいしいことこの上ない。しかも彼女がやってくれたからよけいうまいのかなも知れない。

天晴れ松井さんのマダムぶり

夜は十一時ころまで営業しているが、なんだかんだで一時ころになるという。彼女は通いのママさんというわけだ。
「アルコールもおいてるけど乱れちゃうし、やはり食べもののほうがツケがないから」と商魂たくましい。

○大もてのママさん

〃松井康子の店〃ということもあって、ファンのお客も多い。なんにも言葉を交わさないが、ウェイトレスにこと細かく彼女の消息をきいたり、「何時ころママがくるか、会いたいね」というファンもくるし、サインしてくれというのはザラなんだそうだ。映画のPRもきいたわけだ。
彼女をよくみると、やはり美人である。鼻筋が通り、瞳も純日本的な魅力がある。みればみるほどいい女ってのはこんな女性をいうのだろう。ボリュームの方もひところより幾分痩せたようだ。胸元を

大きくカットしたワンピース白い胸に思わず吸いこまれそうになる。このまま、彼女とベッドに直行してその胸を抱いたらさぞよかんべなあーと思ったりする。ワイセツ的な幻想だろうか。

いやさ、やはり、それだけの想いをいだかせるのはやはり大変な魅力なのである。

艶然たるほほえみと頭の回転のよさはやはり貫鉄十分の女優である。

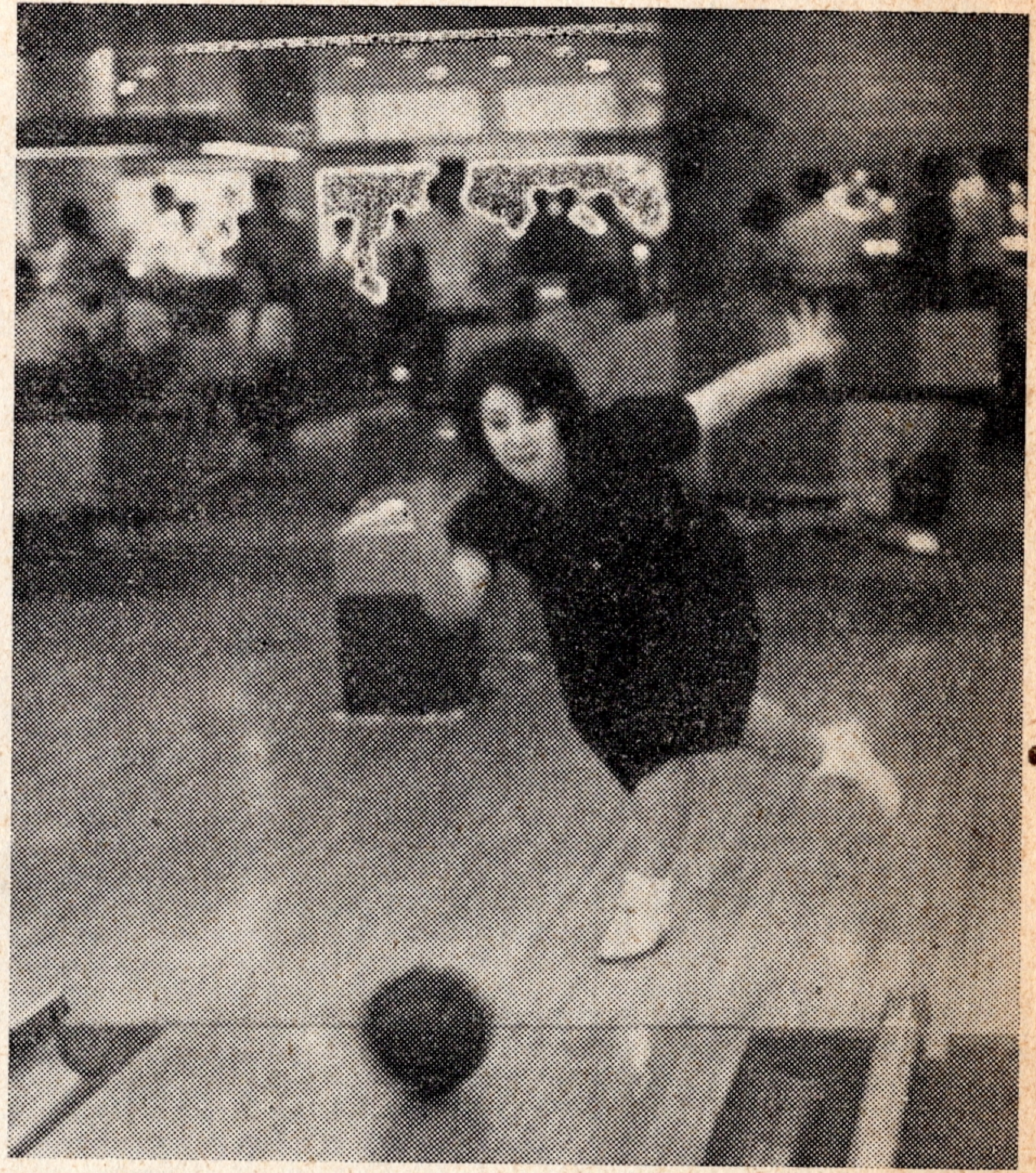
○ソロバンづくのヒマ

このところ、あまり仕事をしていないが、それには彼女なりの計算があるようだ。

作品を選び、いい仕事だけをしたいという。結構である。では仕事のない日はなにをしているのか。それはボーリングである。歩いて五分くらいのところに「東京ファミリーレーン」というデッカイボーリング場がある。

彼女はそこの特別会員で、近く日本ボーリング選手権大会に出場するという。毎日午後二時から三時間ほど練習にはげんでいる。

なにしろ、ボリュ－ム豊かだから馬力がある。それにスピード感が加わって相当のプレをみせる。腕前の方は百八〇のアベレージなそうだ。ちゃんと自分のユニホームとシューズ、ボールまで持っていて、まさに、日本選手権保持者みたいな貫録である。ユニホームに着かえてきて、自分のボールで見事なプレーみせる。さまざまな変化球、ストライクをみせて、まさに〃選手〃の腕前だ。こちらも幸いーとばかりワンゲームほど、松井特別会員のカオでゲームに興じた。いい気持である。



特別会員の見事なボールさばき

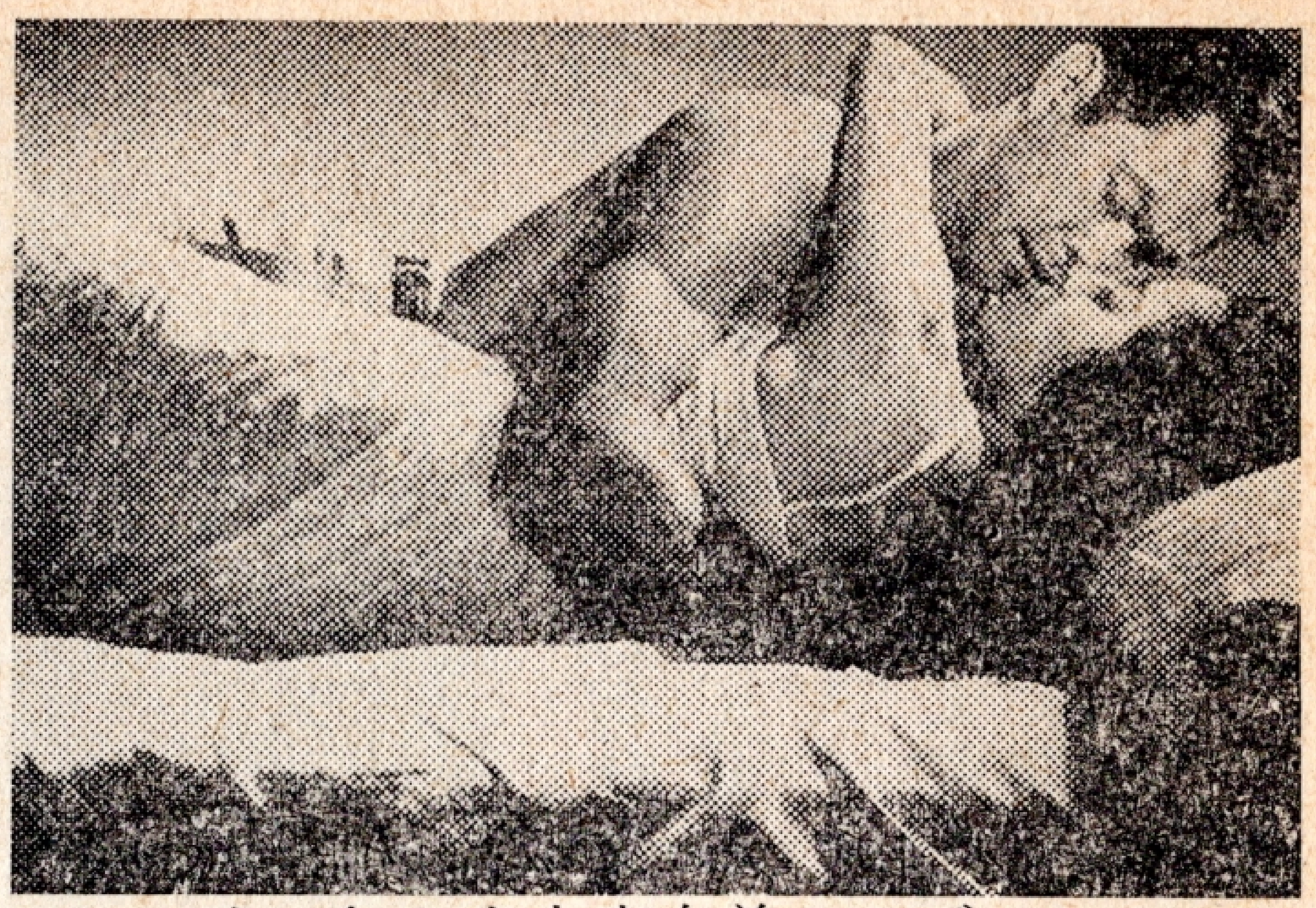
○二十万円の特別会員

彼女はここの特別会員の資格を得るのに二十万円の株を買ったそうだ。たかだか、〃玉ころがし〃といっても、このスポーツはひとりで自由奔放にやれるし、健康的である。孤独のスポーツとはいえ、ボーリングのおもしろさはもっと深いところにあるのだろう。

休息をしていたら落語家の柳家小せんがやってきた。「好色森の石松」「欲求不満」とピンク映画に主演したこともある。松井とは「欲求不満」で共演、彼女がここのボーリング場を小せんに紹介、会員にさせたという。

「かあちゃん」を忘れてゲームをやっているわけだ。

ボーリングとスナックバーに賭ける独立プロのこの女優よく運動し、商売にはげむバイタリティはなかなかのものであった。


田宮二郎と富士真奈美のラブシーン

成人映画上映館のテアトル三原橋、テアトルSS主催の「テアトル・ヌード撮影会」が、伊豆の大島温泉ホテルで行われた。「拷問」（東京興映）撮影中の楓紀子、武内洋子、神山マリの三人の新人ピンク女優が、オール・ヌードで、大サービス。定員五十名のところ九十名あまりのアマチュアカメラマンがドッと申込んだ。船で一泊し、翌日ホテルの大浴場を借り切ってヌード撮影が行われたが、会費二千八百円じゃ高くないと思わせる超サービスもあって参加者はご満悦だった。

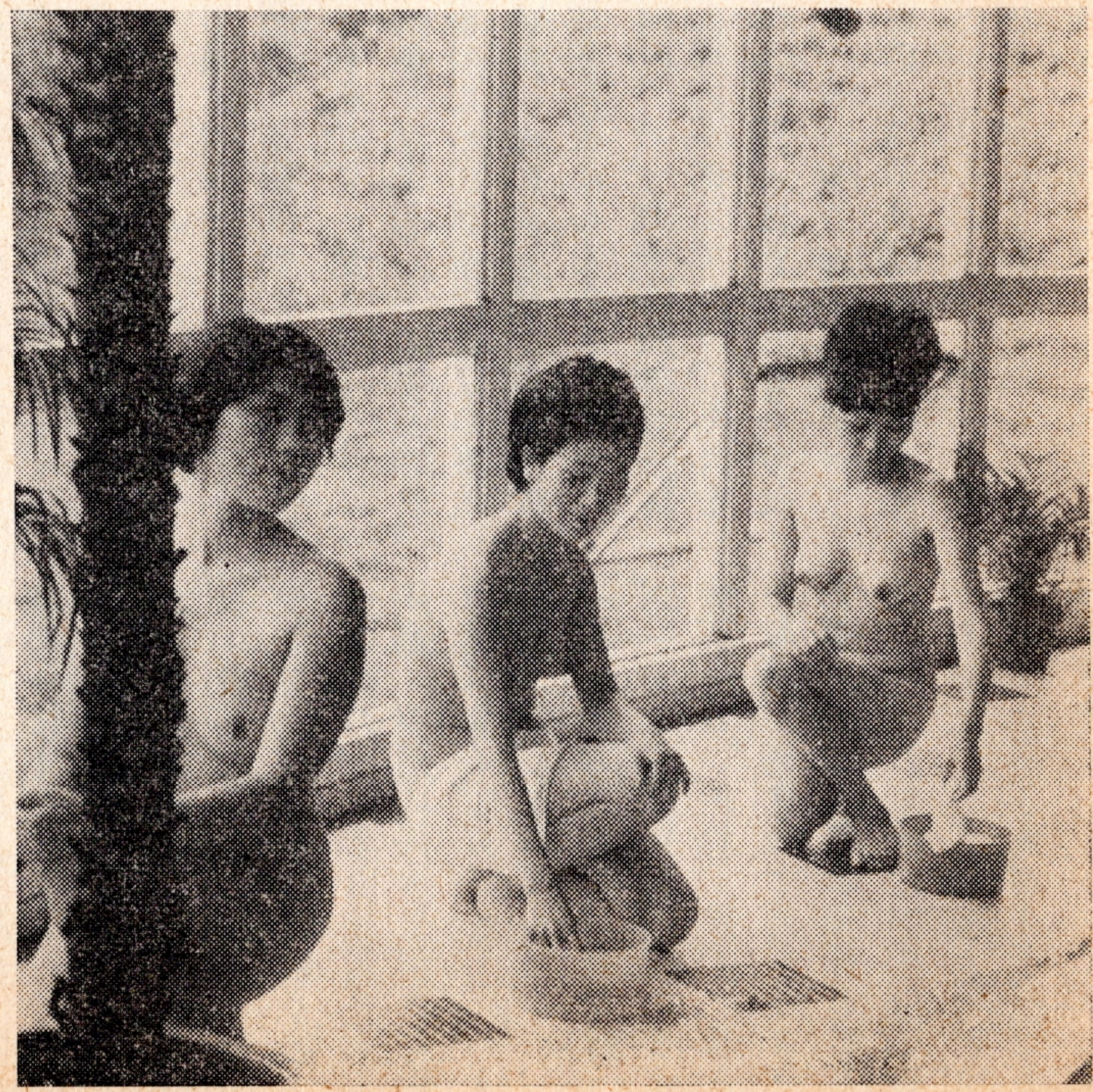
★

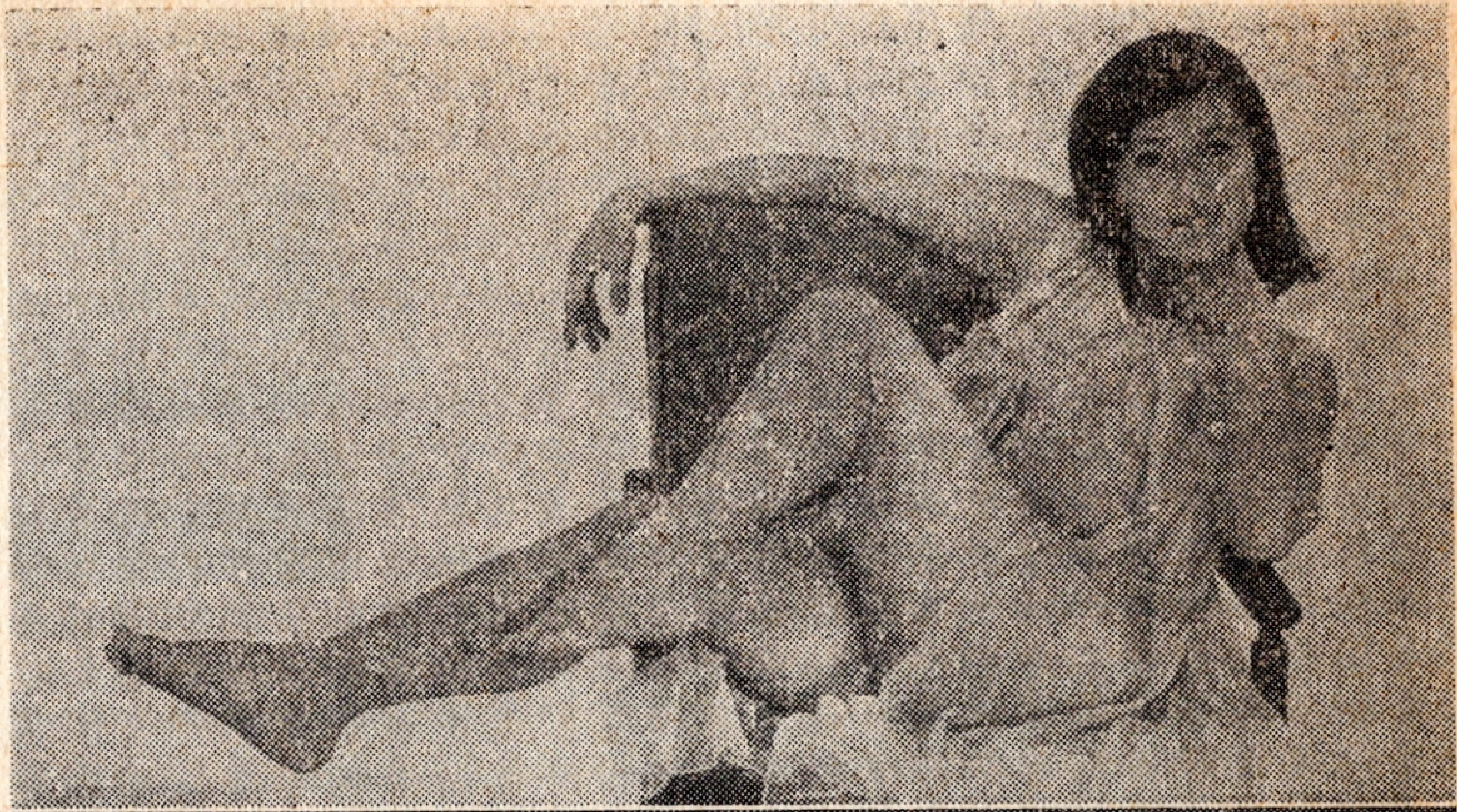
各方面で話題になっている若松プロ作品「裏切りの季節」（監督大和屋竺）は九月二十日から三十日まで新宿京王名画座で特別ロードショウを行なうことになった。同時上映は、ベルリン映画祭に出品して話題となった「壁の中の秘事」（監督若松孝二）。前売券は二百三十円（当日入場券三百円）で発売中。

申込みは東京都渋谷区若松プロTEL（四〇九）三九四七

★

大映で珍らしく、セクシーシーンを撮影した。「脂のしたたり」（黒岩重吾原作、田中徳三監督）で、田宮二郎が久保菜穂子、富士真奈美の二人を相手に二度のラブシーンを演じた。ホテルの一室、証券会社の調査マンの田宮をめぐって、昔の恋人久保と、殺された父親の復しゅうをもくろみ、会社をのっとろうとする富士、久保はバスタオルをまいただけのセミヌード。富士はスリップだけのスタイル。三十度を越す温度にプラスライトの熱でスタジオはむせ返るよう。田宮は両人をかわりばんこに抱きながら、まさに〝汗のしたたり〟のラブシーンだった。


びっくりしたよもう？　ピンク女優のヌード撮影会



連載インタビュー・第2回

花も嵐もふみこえて
新高恵子

きく人／本誌・川島のぶ子

川島　上京したのは何年前？

新高　高校を出てすぐだから七年前、実は大学に入るため上京したんだけどどこで間違えたか家政科の短期大学に入学してしまったの。囲りの人達は田舎の金持の娘さんが多く〝東京の短期大学を出ました〟という肩書きのためにきている人達ばかりで物足りなくて、図書館に行っては退めたいなーとばかり思っていたわ。一週間ばかり仮病をつかってとうとう退めてしまったの。

川島　あなたみたいに好奇心の強い人はそんな大学では満足しないわね。その大学にはどの位通っていたの。

新高　一年位。退学すると家からお金を送ってもらえないので、その日から新聞を買い込んでは職探しに歩いたわ。叔母が田舎で医者をやっているので、家では医者にしたかったらしいのよ。

川島　田舎はどこ？

新高　青森市です。若松監督の作品でご一諸したときに〝おい東北!!〟って呼ぶのよ。監督だって宮城出身県の東北人のくせにね。私、どうして医者になるのをあきらめたかというと、理科の時間に人体の標本があるでしょ、あれを見ると怖くてたまらなかったの。ガイコツを見て怖がっていたんでは医者になる資格がないと思ったの。

川島　それで大学を退めてお勤めしたわけ？

新高　一時、喫茶店で働いていたの。勝手に大学を退めたり、喫茶店に勤めたりしたので家から勘当されそうになったの。そのあと横浜の叔母の家に引き取られちゃったのよその時に歌の勉強をしたわけ。

川島　東芝に入ったのは…。

新高　東芝に入る前に、文化放送の事業部に半年の契約で入ったんです。公開放送のアシスタントをしたり、宣伝関係の仕事をしたりして半年の契約切れてから東芝に入社したんです。

川島　東芝に入って何曲位吹き込んだの。

新高　二、三曲ぐらい。

川島　あなたがラテンを唄っているのを聞いたけど、すごすごく甘い声ね。ラテン系より歌謡曲向きだと思うけど。

新高　私ね、歌謡曲はあまり好きではないの。ラテンの方が好き。

川島　それでレコードは売れましたか。

新高　全然ダメ。だって私にはバックがないでしょ。一曲吹き込むのに最低二百万円位いかかるのよ。プロダクションに所属していれば、バックアップして売り出してもらえるけど、私みたいに一匹狼ではどうしようもない、〃お金か体か〃っていわれて、脅迫観念にとらわれて夢にまでみたわ。二百万円あったらお店でも出しちゃうわ。その方が気楽だものね。私は卑屈なことはやるまいと思っていたし。それで地方のキャバレーやナイトクラブで唄うようになったわけ。

本誌・川島のぶ子

川島　地方の仕事は何年位やっていたの。

新高　四、五年かしら。すごくたのしかったわ。仕事しながら全国を回れたもの。東京に帰ってきたら競争がはげしいので嫌気がさし、コマーシャルに転向したわけ。

そのうちコマーシャルもつまらないなあーと思っていた時に、新藤孝衛監督に脱ぐ場面がないから映画に出てくれといわれたわけなのよ。私はピンク系統の映画にすごい偏見をもっていたので絶対にいやと断ったけどとうとう口説かれて〃色と欲〃のバーのマダム役で出演したのが始めて。

川島　その後が〃雪の涯て〃で主役をやったわけでしょう。

新高　この種の映画に出たことでコマーシャルのスポンサーに知れ、コマーシャルを全部降されたの。仕事もなくて半年位い借金で暮したわ。いままでも借金を返せなくて苦しいけど、この世界に入って本当によかったと思う。世間では変な目でみたりするけどこんなにきびしい条件で肉体的にも、精神的にもギリギリの仕事をしているといろんなことにたえていかれる精神力と、健康に自信が出来たわ。もしこれから他の仕事をしなければならない時でもたえてゆけると思った。

川島　ところで実際のあなたの恋愛をきかせて下さい。

新高　あたし失恋してからぜんぜん恋人いないのよ。

川島　あらあら、あなたが失恋するなんて。

新高　一年ぐらい前だけど。いまだからいえるけど、利個的な人だったのね。三十四、五才だったわ。

川島　どうしてまた別れたの

新高　あたしがいやになっちゃったの。たまたま男のエゴをのぞいてしまうと、それだけが目につき過ぎてしまうのね。それにちょっとした誤解とかお互い忙しくて会えず話し合って理解する機会がなかったことも別れた原因だわね。

川島　やっぱりしょっちゅう会っていることが大切なのね。

新高　しかし女はいつも恋してなけあいけないわね。新鮮さがなくなるのよ。わけてもわたくしたちのように女優である場合はね。しかしいまは恋よりも、うんと稼いで借金払って、明るくはれやかになってまたいい恋愛したいな。

川島　どんな男性が好き？

新高　やっぱり抱擁力のある人ね。それと仕事に自信と勇気を持っている男性ね。そんな人だったら熱烈に燃えなくたって、平凡に仲よく生きて平和であればいいと思う。

川島　もう大人の考えね。仕事の話にもどって、これからの抱負みたいなものは。

新高　ひとつのカラの中に閉じこもらないでやりたいわ。五社でもテレビでも私たちに差別をつけてますけど、結局は独立プロはもっとレベルをあげた作品を作ってゆくべきなのよ。それによって私たちも向上するしね。

ゴージャス娘
5
上田一平
ヤーさんは日本趣味だから…
ご招待くださってありがとうございます
オーヨクキテクレマシタ
オサケハヤッパリサジッササレッデスネ
すっかり酔っちゃったわ
イイデスネエソノポーズ
少し休ませてもらうわ
イヒヒヒコンヤハグットニポンジョーチョネ
ダイノジトハ…アマリニモニポンテキジュギマス…

ピンク映画みたまま

佐藤重臣

ピンク映画もこのところ低調だったせいか、**「白昼の通り魔」**の川口小枝、**「他人の顔」**の京マチ子のヌードシーンは鮮烈な印象だった。私は**「白昼の通り魔」**の長野ロケで小枝君と一晩、おつき合いしたが、さすがに武智家の血筋は争えない。日本にもまだこんな〝日本的〟な女性がいたのかと、不思議に思える位だった。第一、モンペがこんなに似合う女性を最近、見たことがない。胸幅が厚くてややズン胴でありながらこれが妙なエロチシズムを感じさせる。彼女は良家で育っただけに、それが生活様式の中に組み込まれている。という話を大島監督からきいたが、これが、あの**「白昼の通り魔」**の樹木の下の強姦シーンの迫力を生んだのだと思う。**「他人の顔」**の京マチ子の肉体も、全然色あせていなかった。とくに太もものあたりの肉感は格別で、二十代になぜ、全裸シーンをみせなかったのだろうかと、勝手なことながら、そんなことを考えていた。

★

今月見たピンク映画で目ぼしいのは、若松孝二監督の**「胎児が密猟するとき」**。丸木戸定男（マルキドサダオ）シリーズと銘うたれたように、登場人物にデパートの専務（山谷初男）と売り子の志摩みはるの二人。二人はマンションの中で愛の会話をかわすのだが、やがて妄想にとりつかれた丸木戸定男は、彼女をベッドにゆわえつけて、サド候爵ばりにムチでビシビシ打ちまくる。このムチは実は、「風俗奇譚」という雑誌社に大切に保存されているカンガルーで作られたムチだそうだ。普通のムチと違って、打たれても痛さが、だんだん快感に変わっていくような日本に一本しかないムチなのだそうだ。若松プロでは、これを一万円で借りて来たそうだが、こんな凝り方で全篇、ただムチが乱れ飛び、最後には志摩みはるが、犬みたいに部屋にゆわえつけられて、「ワンワン」と吠えるのである。ちょっと不思議な幻想エロチシズム映画で、人によってはかなりの好き嫌いがあるのではないかと思う。

★

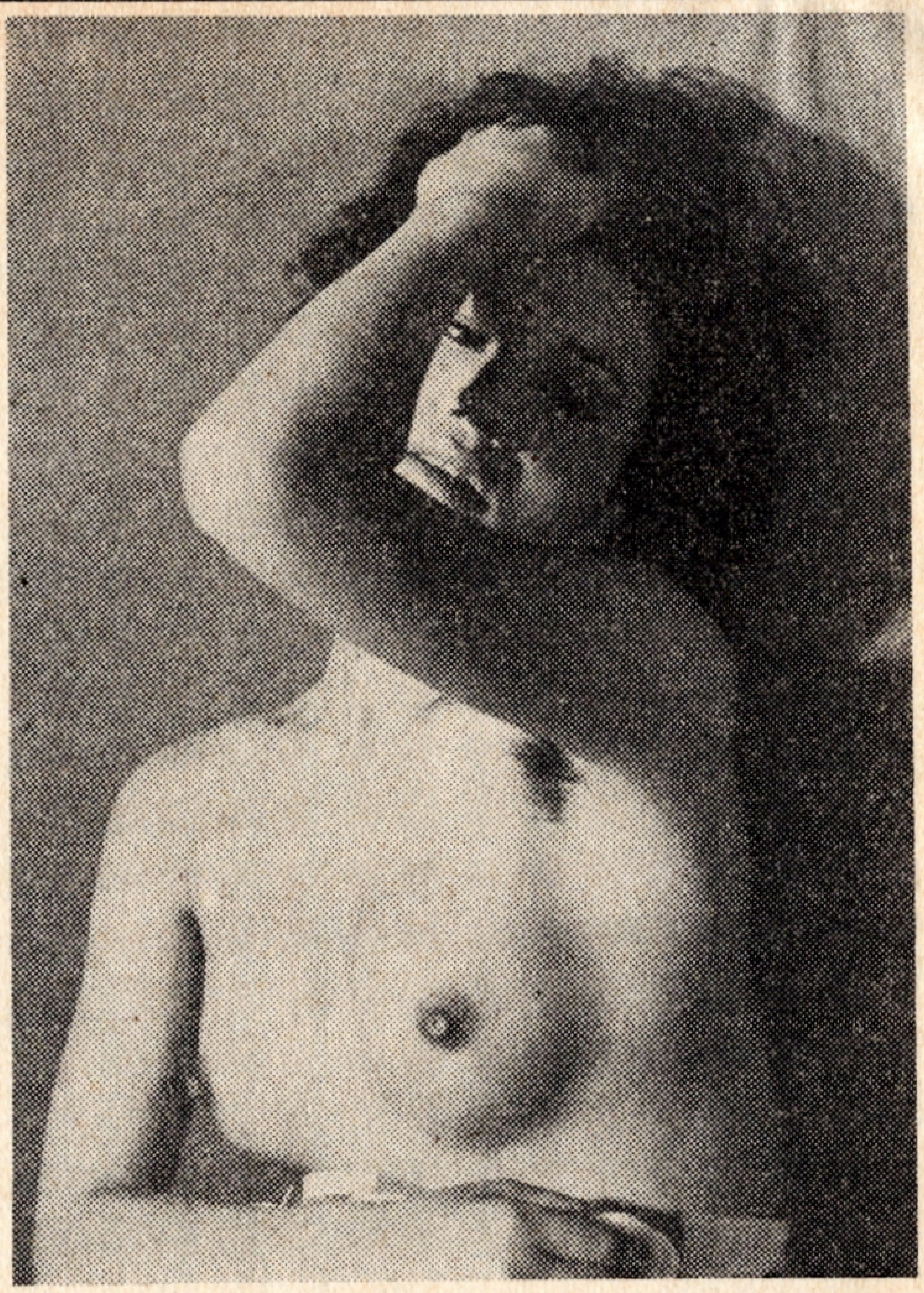
その他では**「涙に濡れた処女」**というのは、登場人物、全員死ぬというアクション・メロドラマ。城山路子が相変わらずバアのマダムで、二階にお客さんを食わえてこんどはネチネチやるという、ストレス・マダムを演じている。

★

泉ユリ、志摩みはる、香取環と若手三人が並べば、食指をそそられるというのが**「生娘」**。この題はいささか偽物だゾォーと絶叫したが、三人をずらりとストリップ小屋に並べた感じは、なかなか新鮮だが、山本晋也監督も、もうひとふんばり女優をきれいに撮って欲しいと思った。

川口小枝の見事な肉体

▼谷口朱里



▶内田高子

セクシー女優 ワキ毛の美学

▲可能かづ子

○ヌードより強烈

戦後、イタリア映画の「苦い米」で、シルバーナ・マンガーノが踊りながら、黒々としたワキ毛をバッチリとのぞかせる場面はなかなかに強烈なセクシー場面であった。

オール・ヌードよりも強烈でリアルに女の体臭を発散させて話題をよんだものであった。

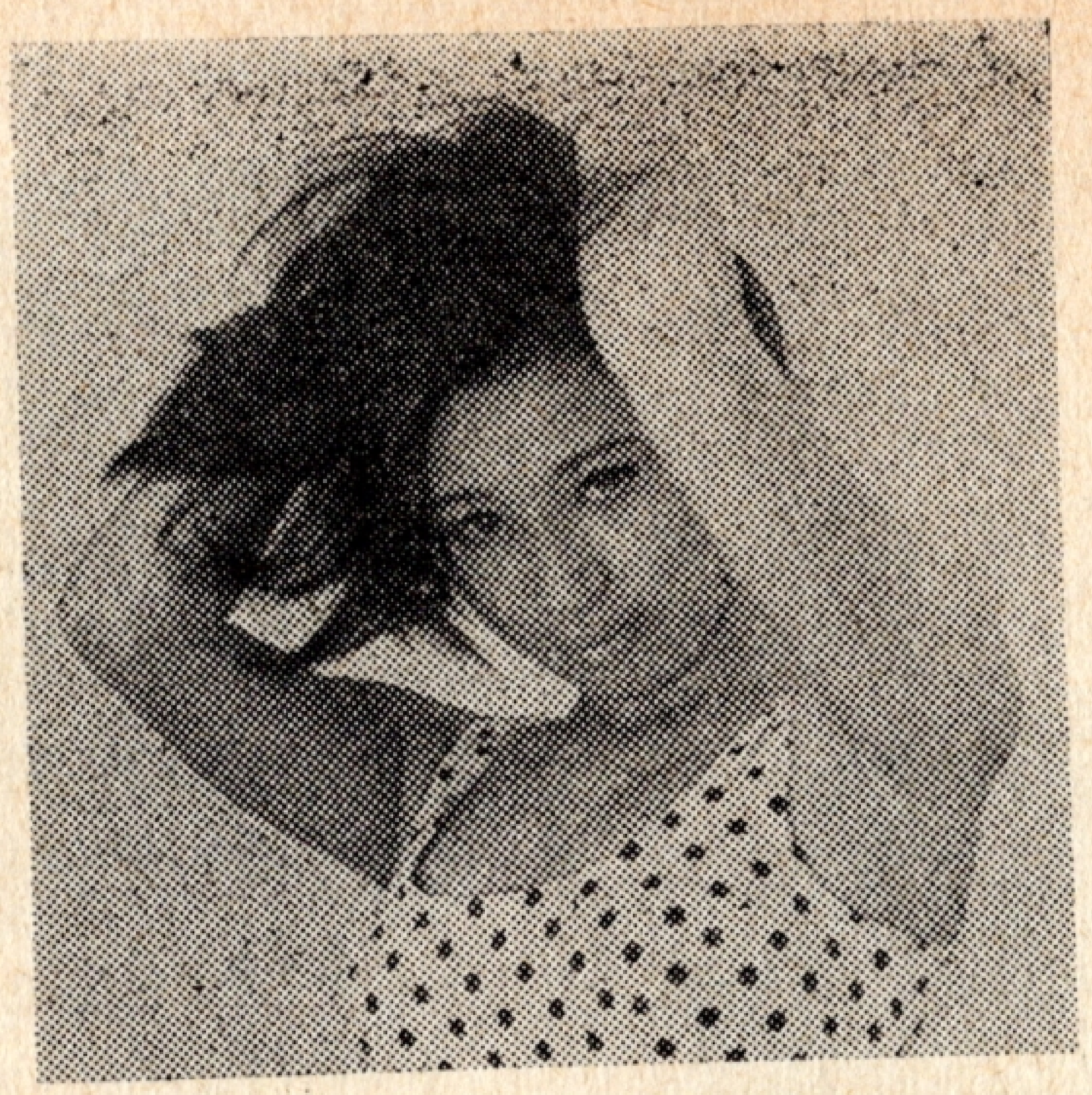
以来、日本でもしきりとそれをマネて松竹の泉京子、東映の鈴木、朝子がワキ毛女優して売り出せば、筑波久子、宝の三原葉子、前田通子とい新東ったためんめんが、ワキの下のセクシーさを競ったものだ。いささかお古い話となったが、なぜ女のワキ毛がかくまでに魅力的だ?とか性的なものを感じさせるといわれるのだろうか。

○デルタへの連想

ワキ毛は体毛であって、女性のデルタ地帯のそれと関連して考えるところに、セクシーなものを感じとるのだ。

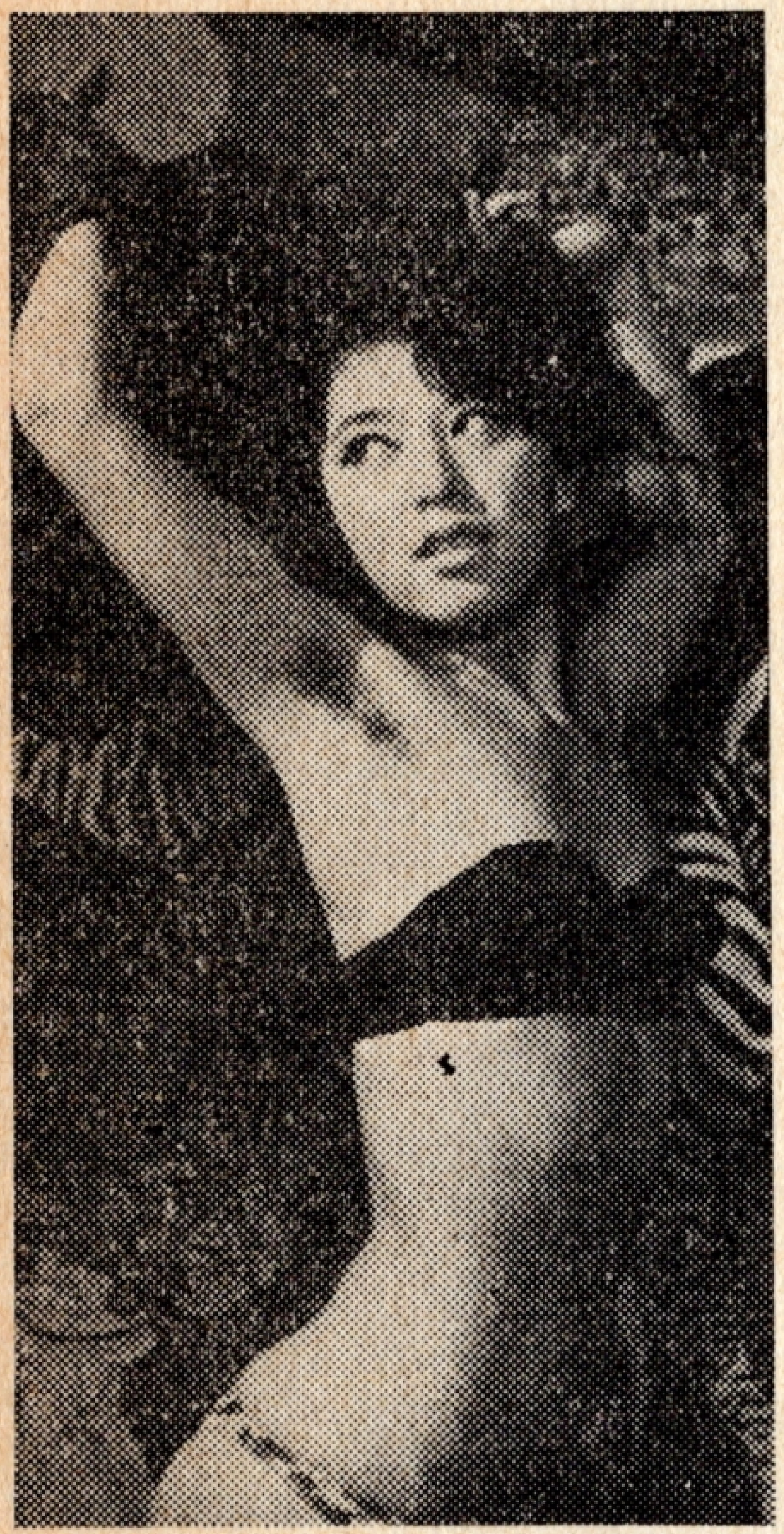
濃い女性は情が濃いといわれたり、ワキ毛が濃いのはそれも濃いものといわれる。確かに一理あることだ。黒々とした生えぎわのよさ、密性度、そして毛並み…そこには女の生の魅力がストレートに読みとることができるからだ。

イタリア、フランスの映画をみると、ほとんどが自然のままであり、それがアメリカ映画ともなると、スクリーンに現われる女優は一本も生えていない不毛のワキの下をみせられる。アメリカではムダな毛は失礼に当り、レデイは刈りとるか、そることになっている。だからベッド・シーンでは全くみることができない。それがヨーロッパとなると、自然なものをなるべくのこして、そのままにしておく習慣がある。



▶北御門杏子

▼橘桂子



フランス映画の楽しさはベッ・ドシーン、イタリア映画はワキ毛の楽しさ、ソフィア、ローレンのワキ毛はやはり一級の毛並みといえるだろう。

○映倫はワキ毛NG

なぜかくまで、ワキ毛が注目されるかは、前にものべたが、最近、映倫ではワキ毛までシーンをカットせよ、と注文を出しているそうだ。

自然にそこに生えているものまでもみてはならないとするのはやはりワイセツ度を刺激するからか。

しかし女性のほどよいワキ毛ほど、その人柄や女を感じさせるものはない。

ベッド・シーンで、シャワーシーンでなにげなくチラリとのぞく、黒々としたワキの下、それがほどよい密生度を示しているなら、やはり〃おんな〃を感じさせずにおくまい。

いまの邦画五社の作品をみて、ワキ毛のシーンをセクシーにとらえている作品はほとんどないといっていい。

その点、ピンク系の作品をみると、そんな楽しさをしみじみと味あわせてくれるのだ。

○トップは内田高子

まず、そのトップを行くのが内田高子。毛足の長さと、自然にクセもなく伸びたワキ毛は彼女の性格を表わしている。素直な性格であって、密度の濃さも、愛情のこまやかさを示している。

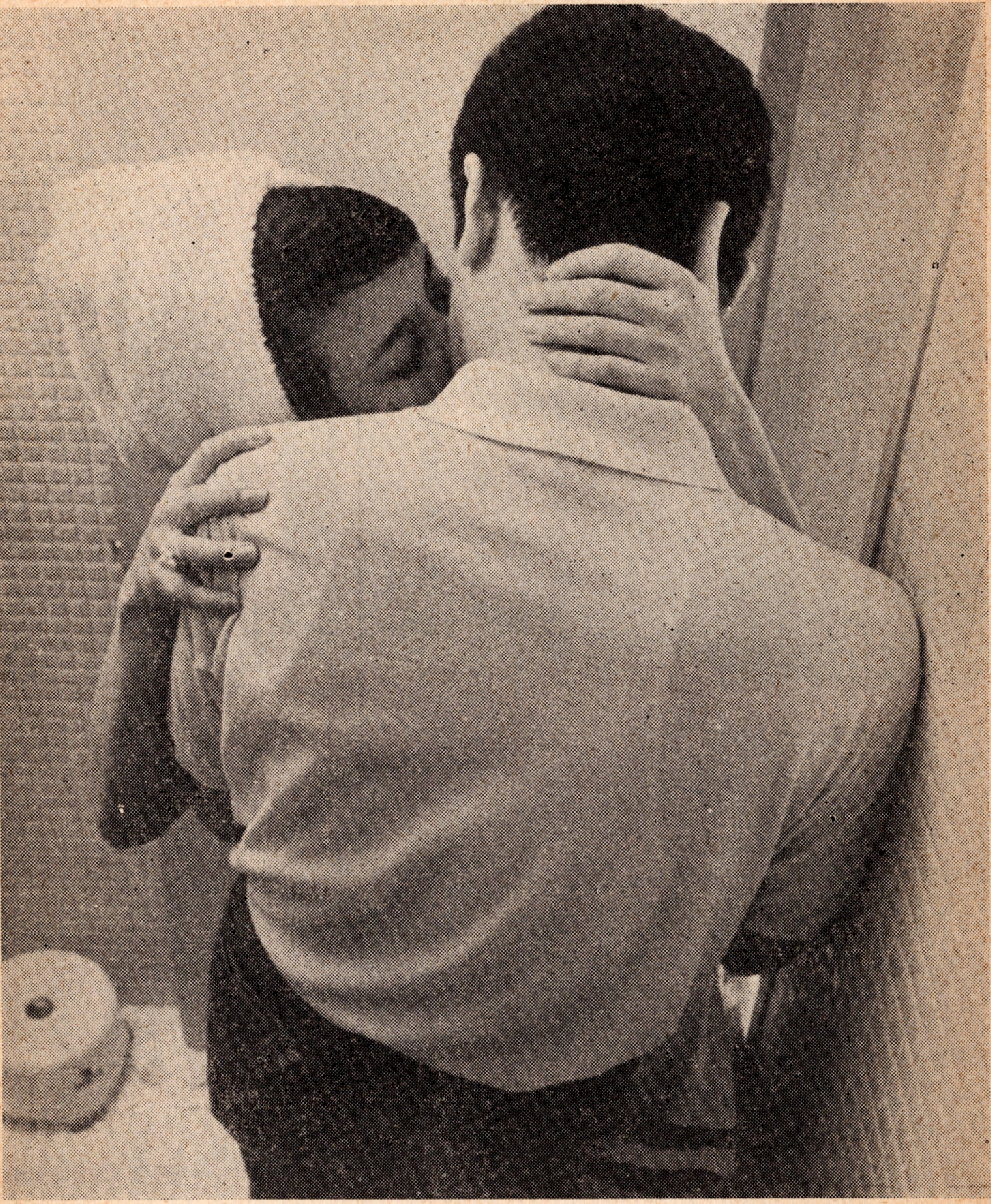
○密度の濃い橘桂子

若手では橘桂子の密生度、これは一本気でストレートな性格を知ることができる。

ほどよい濃さとセクシーさをみせるのに可能かづ子、谷口朱里、扇町京子、城山路子らだが、密度のなさでは松井康子、香取環、新高恵子、北御門杏子といったところ。統じて、太り形の女優は毛が薄い。適度なワキ毛のあり方はこれからの女優にとって大切な条件だし、どこにでもみられるように、きれいにそり上げてしまっては、BGと変りはないのである。

ワキ毛の手入れもセクシー女優の条件だ。男性ファンはそれが好きなのだから。

× × ×



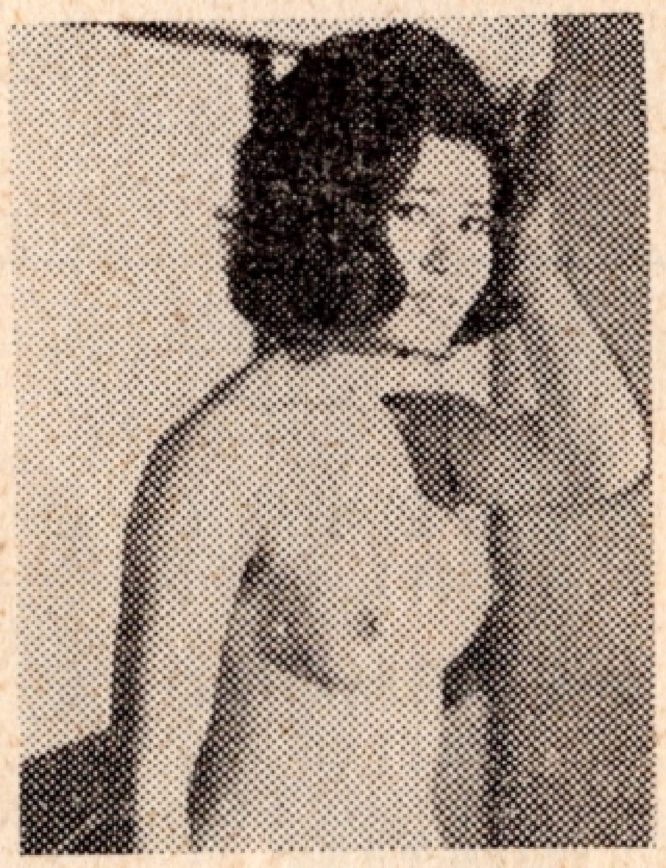
<みづうみは渇れていた>

妻（岡田茉莉子）が夫以外の若い男（早川保）と関係し，裸体写真をとらせそのネガフイルムが奪われる，それをとりかえすために北陸にまで出かけて，その脅迫者（露口茂）とまたも関係する。吉田喜重監督は女の心にはいつもみたされないみづうみがある，それを描く…という。情事によって人妻の欲求不満を満たそうとしても女は永遠に渇きつづけるものだ。フロ場で情事に侵入してゆく岡田と早川のラブシーン『女のみづうみ』（現代映画社製作・松竹配給，原作川端康成）から

★ O・P チェーン9・10月番組

期間	作品	配給
8/25——8/29	女子大生の抵抗	大蔵映画
	夜泣きの女	明光セレクト
8/30——9/5	甘い体臭	関東映配
	あなたの留守に	大蔵映画
9/6——9/12	甘い吐息	東京興映
	情炎	日本シネマ
9/13——8/19	乳房の週末	大蔵映画
	夜の日記	関東ムービー
9/20——9/26	盗まれた官能	日本シネマ
	嘆きの太陽	大蔵映画
9/27——10/3	俺も嫁が欲しい	大蔵映画
	刺青の女	葵映画
10/4——10/10	朝立ちの女	大蔵映画
	女犯	大蔵映画
10/11——10/17	歓喜の果て	大蔵映画
	いたづら	日本シネマ

暑中御見舞い申上げます



内田高子

谷口朱里

編集後記

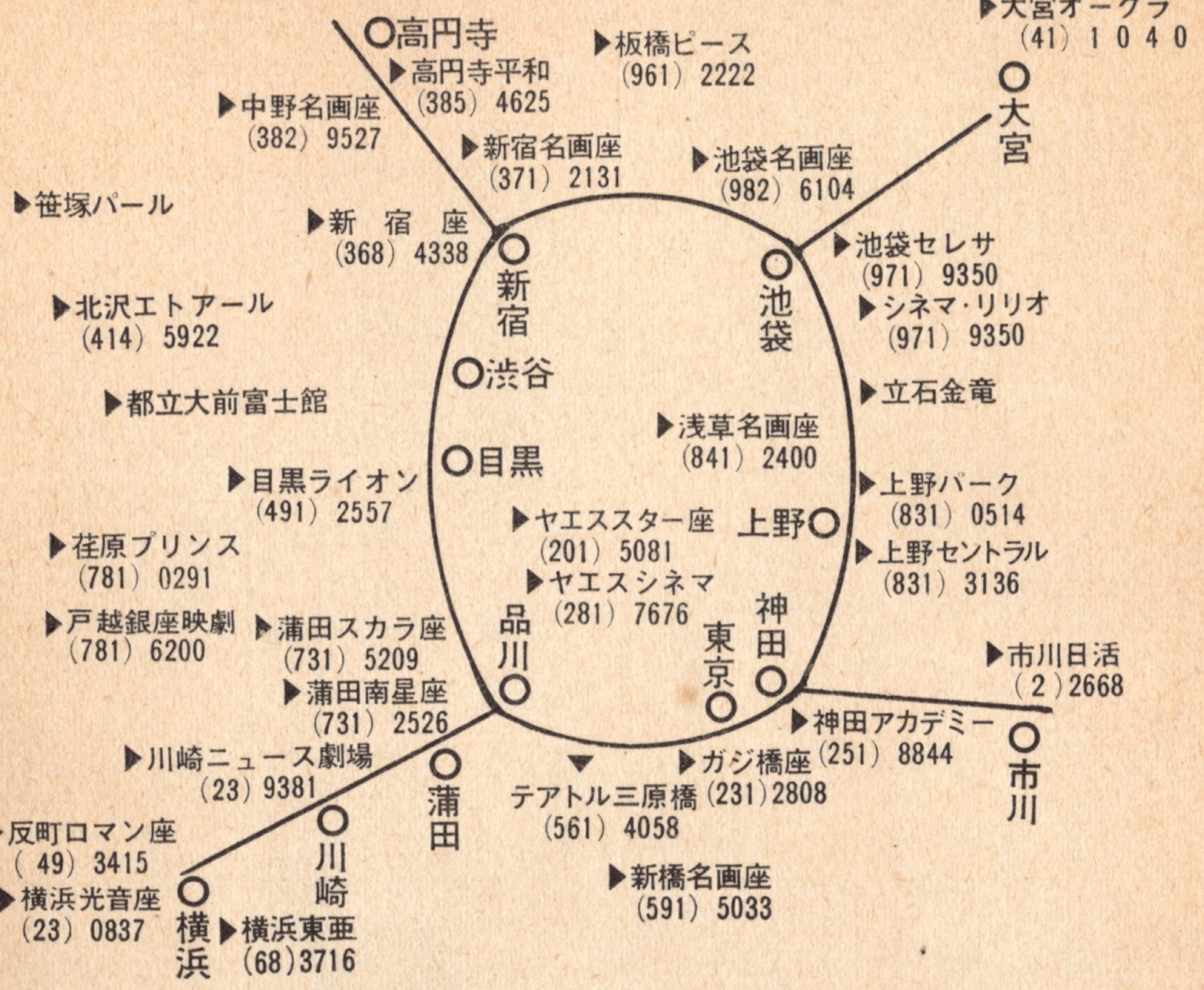
★うだるような連日の暑さで編集部一同いささかバテ気味だが，ピンク映画製作のほうは炎暑にも負けず皆さん大張切り。秋の映画シーズンに備えて大活動ですから，私たちも負けずにため息のでるような雑誌を作ろうと決意?(E)

★先日，松井康子がスナックバーを経営したが，内田高子新高恵子，谷口朱里らも店をやりたいという。低滞気味といわれる独立映画だからといって不安なのは解るが彼女たちが一線の女優であることを忘れてはいけない(K)

武智鉄二，新藤兼人，若松孝二，湯浅浪男ら独立プロ監督が進撃している。成人映画の砦を守る意欲に積極的な支援を送りたい。特集の「独立プロの切札はエロチシズム」はその一つの現われだ。今後の観音開きグラビアに乞期待(X)

「成人映画」通巻第11号　昭和41年9月1日発行　定価100円（送料35円）編集兼発行人川島のぶ子　発行所／東京都中央区銀座東6－4村木ビル5階　**現代工房**　電話(541) 3798

関東地区成人映画上映館一覧表



大阪地区成人映画上映館

難 波

▶千日前オリオン座 (641) 5477

▶千日前新オリオン座 (641) 5477

西淀川区

▶野里リボン座 (471) 1082

阿倍野筋

▶阿倍野名画座 (641) 5885

福島区

▶吉本キネマ (451) 6793

布施市

▶布施映劇 (721) 4990

城東区

▶放出シネマ (961) 0664

守口市

▶守口セントラル (991) 0049

東淀川区

▶十三若草劇場 (301) 5929

天王寺区

▶鶴橋松竹 (761) 9752

都島区

▶都島会館 (951) 4651

北 区

▶天六映画劇場 (351) 9138

大阪駅

名古屋地区成人映画上映館

○浄心ハイツ (531) 4118

○上飯田劇場 (991) 5714

○守山瓢映 0560-(79) 2082

○栄生グランド劇場 (551) 6379

○タカラ劇場 (941) 6076

○堀川映画劇場 (231) 0193

⊙今池フジ (731) 4763

○太閤劇場 (551) 2353

⊙テアトル希望 (541) 3044

○曙文化劇場 (731) 3806

⊙日活シネマ (241) 2345

○鶴舞劇場 (881) 8494

⊙名 画 座 (231) 3211

○雁道劇場 (881) 8069

○日比野東映 (671) 0407

○八熊文化劇場 (321) 8194

⊙南映画劇場 (811) 4906

○新郊劇場 (811) 2730

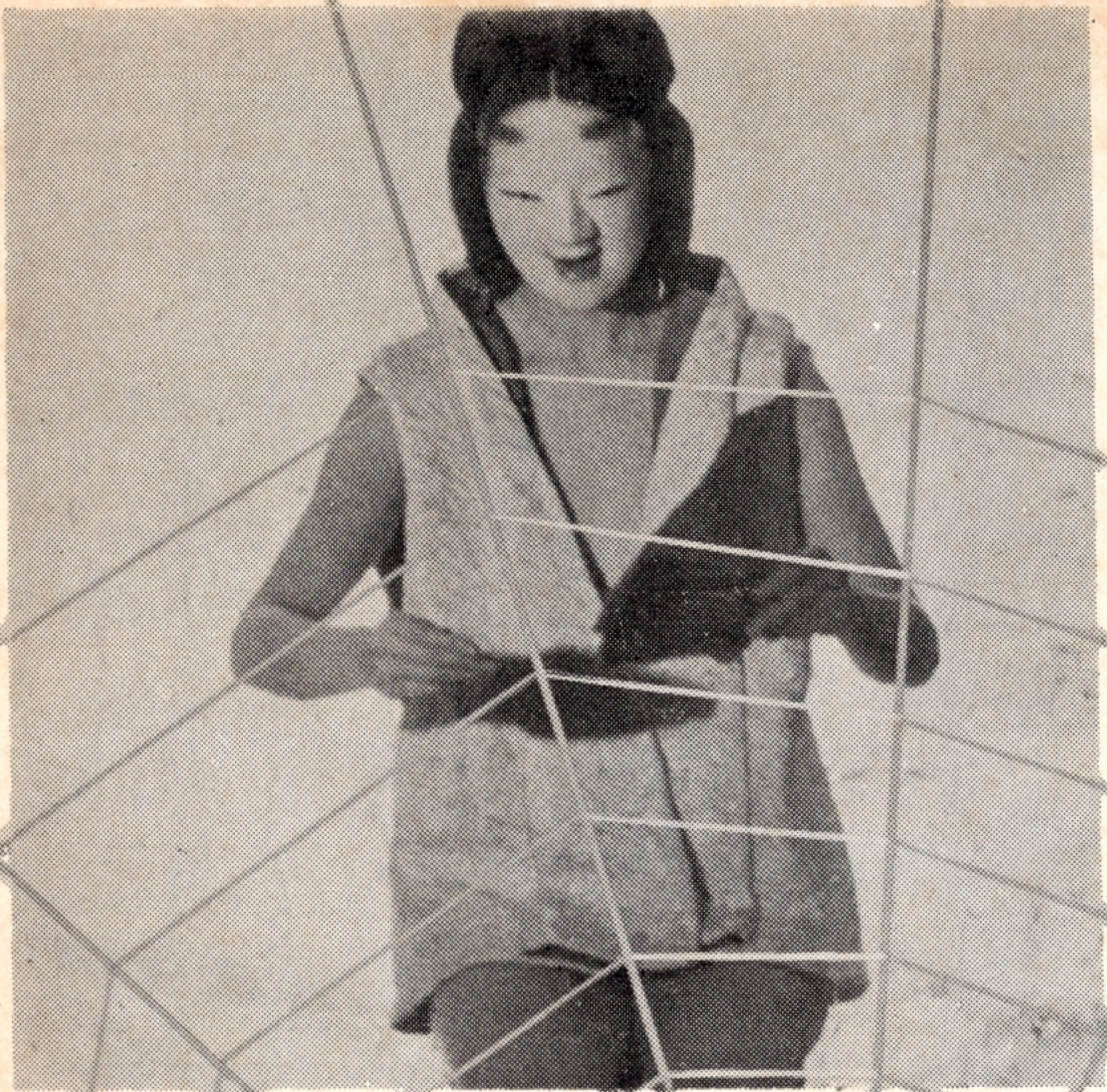
○名港文化劇場 (661) 1269

○名南劇場 (811) 6586

日本人の精神構造を追求した武智芸術の結集作!!

女は真珠貝で自分の墓を掘り
能面師は砂丘に女を埋める…
女の悲しみの唄に
第二の太陽が昇る

《第三プロ製作》



幻日

夏目漱石生誕百年記念映画「夢十夜」より

製作／長島豊次郎
監督・脚本／武智鉄二
撮影／高田　昭

内田良平
川口秀子
津崎公平
佐藤　慶
柴田恒子

月刊「成人映画」通巻第十一号 昭和41年9月1日発行 編集兼発行人 川島のぶ子 発行所/東京都中央区銀座東六の四 村木ビル五階 電話(五四一)三七九八 現代工房 定価百円